

令和 6 年度(2024 年度)
第 1 回熊本博物館協議会

熊本博物館

次 第

1 開会

2 新委員紹介及び職員紹介

3 議事

(1)①令和5年度(2023年度)事業報告について

②令和5年度(2023年度)熊本博物館運営点検評価報告について

(2)その他

4 閉会

議事（1）令和5年度（2023年度）事業報告について

【熊本博物館関係】

1	展示	・・・・・・・・・・ P 1
2	プラネタリウム	・・・・・・・・・・ P 3
3	教育・普及活動	・・・・・・・・・・ P 6
4	行事・イベント	・・・・・・・・・・ P14
5	資料の収集・保存	・・・・・・・・・・ P17
6	広報活動・刊行物	・・・・・・・・・・ P19
7	入館者状況	・・・・・・・・・・ P20

【塚原歴史民俗資料館関係】

・・・・・・・・・・ P21

【熊本博物館関係】

1 展示

(1) 特別展（館報 P15）

【事業名】 夏季特別展 富田伊織 新世界『透明標本』展

期 間 令和5年（2023年）7月15日（土）～9月3日（日）

場 所 特別展示室1・2・3

内 容 RKK熊本放送開局70周年記念特別展。標本作家富田伊織氏の製作した透明標本（硬骨を赤色に、軟骨を青色に染色した骨格標本。筋肉は酵素などで分解した後に透明化しており、美しく染色された骨が透けて見える）約500点を展示した。

成 果 来場者 41,261人

備 考 関連イベントとして、魚の解剖を見てみよう！やミュージアムトークなどを実施。

(2) 企画展（館報 P15～）

【事業名】 立田山 一身近な自然の魅力—

期 間 令和5年（2023年）3月18日（土）～5月14日（日）

場 所 特別展示室3

内 容 立田山の成り立ちや変遷、生息している動植物について紹介。

成 果 来場者 8,329人（4/1～5/14）

備 考 関連イベントとして、展示解説（ミュージアムトーク）や観察会及び、講演会を実施。

【事業名】 清正から受け継いだ名城—加藤忠広と熊本城—

期 間 令和5年（2023年）10月14日（土）～12月17日（日）

場 所 特別展示室1・2・3

内 容 加藤忠広時代の熊本城と支城に焦点をあてた展示。瓦を中心とした考古・民俗資料、古文書・肖像画等を出陳。

成 果 来場者 13,837人

備 考 関連イベントとして、展示解説（ミュージアムトーク）・現地案内やシンポジウムを実施。

【事業名】 資料保存の世界—未来へつなぐ文化財の裏側—

期 間 令和6年（2024年）3月9日（土）～5月12日（日）

場 所 特別展示室1・2

内 容 保存という観点から文化財に焦点をあてた展示。科学分析や処理方法、文化財害虫などを展示。

成 果 来場者 4,858人 (3/9~3/31)

備 考 関連イベントとして、展示解説（ミュージアムトーク）や講演会を実施。

（3）共催展（館報 P17）

【事業名】 熊本市遺跡発掘速報展 2023

期 間 令和6年（2024年）2月3日（土）～5月12日（日）

場 所 特別展示室3

主 催 熊本市文化財課、熊本博物館

内 容 昨年文化財課が実施した発掘調査及び整理作業を行った遺跡の調査成果について出土遺物や写真パネルの展示を行った。また、当館収蔵資料（寄託品）で昨年整理した「荒尾市樺番城窯跡出土品（中世須恵器）」を「蔵出し」と称して展示・公開。

成 果 来場者 14,527人 (2/3~3/31)

備 考 関連イベントとして、ギャラリートークを実施。

（4）その他の展示（館報 P17～18）

【事業名】 くまはく SL69665号機 100歳記念写真パネル展一

期 間 令和5年（2023年）1月11日（水）～5月14日（日）

場 所 2階ロビー（壁面）

主 催 熊本博物館

内 容 屋外展示場のSL69665号機（1923年製造）が令和5年（2023年）1月に満100歳となったのを記念した写真パネル展。①現役時代の勇姿、②当館建設予定地への移設状況、③屋外展示場での記念写真など、3部構成で展示。

成 果 来場者 8,514人 (4/1~5/14)

備 考 3部構成の中の「①現役時代の勇姿、③屋外展示場での記念写真」については当館のHPやX（旧Twitter）にて写真提供を呼びかけ、当館が所蔵していない貴重な写真を交えた展示会になるよう工夫し、写真提供者・来場観覧者との一体感を高めることができるよう配慮した。

2 プラネタリウム（館報 P19～24）

（1）各種投映

【事業名】一般投映番組

投映全体の前半は星空解説、後半はオート番組による2部構成で投映。星空解説部分は、投映スタッフによる生解説で投映当夜の星空を紹介。

（ア）「470億光年の、その先へ—宇宙のはてを探す旅—」

カノンの調べと共に星空の果てを探して旅をする番組。宇宙の不思議を伝えるサイエンス・ファンタジー。

投映期間 令和5年（2023年）3月8日（水）～7月9日（日）

（イ）「水の惑星 -星の旅シリーズ-」

水が存在し、生命に溢れる地球独自の環境を、美しい海と星空のタイムラプス映像と共に紹介。

投映期間 令和5年（2023年）7月15日（土）～10月9日（月）

（ウ）「虹の天象儀 SKYFUL OF RAINBOW」

実在した東日天文館を舞台に、戦時中、現在、未来のプラネタリウムの担い手たちが時空を超えて繋がるサイエンス・ファンタジー作品。プラネタリウム100年の記念投映。

投映期間 令和5年（2023年）10月11日（水）～12月3日（日）

（エ）「Goodnight Goldilocks 太陽系外惑星の世界」

太陽系外惑星探査の成果に基づき、生命が存在するのにちょうどいい「ゴルディロックゾーン」を探す旅を描いた番組。

投映期間 令和5年（2023年）12月5日（火）～令和6年（2024年）3月10日（日）

（オ）「イナズマデリバリー バイザウェイの宇宙旅行?!」

宇宙人バイザウェイが銀河やブラックホールを経由しながらも地球を目指して宇宙を旅する3DCGアニメーション番組。

投映期間 令和6年（2024年）3月12日（火）～7月12日（金）

※投映期間は休館日・メンテ日を除く

【事業名】ファミリーアワー

幼児から小学校低学年やその家族を対象に、プラネタリウムに親しんでもらう最初のお機会として毎週土曜・日曜、祝日及び学校長期休業中に実施。

全体の投映時間は45分間（平常時は歌や掛け声を交え、わくわく感を高めるなどの工夫）。また、番組投映の前には当夜の星空を紹介。

（ア）「テンテンのさがしもの」

パンダのテンテンたちが、友人のために光る赤いものを探して宇宙に飛び立つ話を通して、惑星や月、十二星座など、身近な天体について紹介する番組。

投映期間 令和5年（2023年）3月10日（金）～令和6年（2024年）3月10日（日）

(イ)「ほしのくにでみつけたたからもの」

たっくんは動物が苦手。飼い猫のキキが病気になったのは自分のせいだと思い込み、キキの友達（こぐま座のアル）とどんな病気も治すミルクを探しに星の国へ。十二星座も紹介する内容。

放映期間 令和6年（2024年）3月15日（金）～7月7日（日）

【事業名】学習放映

小中学校の理科・天体学習の理解を深めるため、学校団体向けの放映を行うもの。当日の星空を中心に、星座、惑星、太陽・月・星の動きなどを生解説し、学年に合わせたテーマ番組の放映を実施。また、熊本市立小学校は5年生時に集団宿泊教室を行うことから、目的地に向かう前に当館を訪れてもらい、その際にプラネタリウム放映を行っている。宿泊教室以外の「学校行事等」での利用にも応じている。

放映回数総数 37回

【事業名】幼児団体向け放映

幼稚園や保育園などの幼児団体向けの放映を行うもの。放映時間は45分間で、星空の紹介（生解説）と幼児向け番組の2部構成。放映期間と内容は、前述のファミリーアワーと同様。

【事業名】字幕付きプラネタリウム

プラネタリウムの放映は映像と音声で構成されており、聴覚に障がいのある人にとっては、通常の放映では内容が十分に伝わらない面がある。そこで、聴覚に障がいのある人も一緒にプラネタリウムを楽しむことができるよう、字幕付きプラネタリウムを実施。字幕については、熊本県聴覚障害者情報提供センターにご協力をいただいた。

(ア) 第50回字幕付きプラネタリウム

放映番組「470億光年の、その先へ—宇宙のはてを探す旅—」

日時 令和5年（2023年）5月13日（土）①12:40～13:35、②14:10～15:05

成果 観覧者 103名

(イ) 第51回字幕付きプラネタリウム

放映番組「虹の天象儀」

日時 令和5年（2023年）11月19日（日）①12:40～13:35、②14:10～15:05

成果 観覧者 83名

(ウ) 第52回字幕付きプラネタリウム

放映番組「水の惑星」

日時 令和6年（2024年）3月2日（土）①12:40～13:35、②14:10～15:05

成果 観覧者 111名

【事業名】特別投映

(ア) こどもまんなかプラネタリウム ～ はじめまして大歓迎☆30min ～

熊本博物館と熊本市こども局主催の特別プログラム。赤ちゃん連れの方や、プラネタリウムに行きたいけど遠慮している方々へ、少し短い30分間、出入りも自由で、気軽に参加してもらえるように企画したプログラム。

日 時 ① 令和5年(2023年)6月8日(木) ② 6月10日(土)

両日とも11:10~11:40

成果 観覧者 ① 100名 ② 130名

(イ) 熟睡プラ寝たりウム

全国一斉「熟睡プラ寝たりウム」の開催に合わせ、気持ちよく眠っていただくためのプログラム投映。

日 時 令和5年(2023年)11月23日(木・祝) ①11:10~12:00、②15:40~16:50

成 果 観覧者 121名

(ウ) クリスマス特別投映

23日はバス・電車無料DAYで24日はクリスマスイブだったため、最終投映をクリスマススペシャルと題してクリスマスにちなんだ星空解説を交えた特別投映を行った。

日 時 ①令和5年(2023年)12月23日(土) ②12月24日(日) 15:40~16:35

成 果 観覧者 ① 32名 ②※館内設備停電のため臨時休館

(エ) アーティストウィーク熊本2024「プラネタリウム音楽祭」

熊本市在住アーティスト2組の演奏と星空解説を組み合わせ、音楽と星空・宇宙の映像をオリジナルで組み合わせた特別投映を行った。

日 時 令和6年(2024年)2月4日(日) 15:40~16:40

成 果 観覧者 152名(満席)

(オ) くまはく誕生月間でのプラネ特別番組投映

2月の誕生月間に合わせて、毎週末のファミリーアワー(11時10分)と最終回(15時40分)を特別番組として様々な番組の投映を行った。

日 時 ① 令和6年(2024年)2月10(土)~2月12日(月・祝)

② 令和6年(2024年)2月17(土)~2月18日(日)

③ 令和6年(2024年)2月23(金・祝)~2月25日(日)

投映番組

① ファミリー「むしむし星空大行進」 観覧者 266名(3回投映)

最終回 「星の光は時のトビラ」 観覧者 180名(3回投映)

② ファミリー「キラキラ森のなかまたち」 観覧者 62名(2回投映)

最終回 「星の森」 観覧者 96名(2回投映)

③ ファミリー「みちしるべのほし」 観覧者 249名(3回投映)

最終回 「ユニバース」 観覧者 203名(3回投映)

(カ) 旅立ち応援スペシャル投映

3月は卒業シーズンということで、小学校から中学校等へとステップアップする子ども

たちや熊本から他県へ旅立つ人たちを熊本博物館からお祝いするという意味合いをこめて特別投映を行った。

日 時 令和6年(2024年)3月20日(水・祝) 15:40~16:30

成 果 観覧者 31名

(2) 天文講演会

【事業名】「金星大気 ～ 長期変動に挑み続ける探査機『あかつき』」

金星探査機『あかつき』による金星大気の長期変動の最新科学成果や金星の風速の強さを地球上で実体験している動画を観賞。JAXA(相模原キャンパス)とZOOMでつなぎ、『あかつき』チームの田口氏・今村氏・山崎氏とのリモート交流会を行った。

日 時 令和5年(2023年)11月4日(土) 14:00~16:00

講 師 佐藤 毅彦氏(理学博士)

場 所 プラネタリウム

成 果 参加者 31名

3 教育・普及活動

(1) 通年講座・教室(館報P25~)

【事業名】考古学講座(全6回)

目 的 遺跡・遺構・遺物を基礎単位として「モノ」に触れてもらうことを目的とする。
内 容 今年は「先史考古学」と「歴史考古学」にわけて、座学や遺跡探訪・展示解説を中心に6回実施した(通年講座)。

成 果 参加者数 137人(年間)

備 考 これまで、先史考古学を中心とした内容であったものを、歴史時代の考古学にも幅を広げて、城郭遺跡や近世大名墓所にも対象を広げた。

【事業名】地質学講座(全5回)

目 的 化石・岩石・鉱物など、熊本博物館の地質資料や大地に関する普及・啓発

内 容 当館の地質資料や熊本の大地に関する通年講座。小学校高学年から一般成人を対象に隔月で開催。

成 果 参加者数 119人(年間)

【事業名】動物学講座(全6回)

目 的 生物多様性について学び、動物としてのヒトがいかに自然と関わるべきか考える。

内 容 野外観察会や室内学習で、身近な動物の生態や形態などについて学ぶ。小学4年生以上を対象とした通年講座。

成 果 参加者数 144人(年間)

備考 同じメンバーを対象に通年で実施する講座なので、単発のイベントよりも学習効果が高い。

【事業名】植物学講座（全5回）

目的 身近な植物に親しみ、興味・関心を高め、地域の自然や生物多様性について考える。

内容 野外観察会（6・10月）や室内学習（4・8・12月）を通して、身近な植物に親しみ、興味・関心を高めることを目的とした通年講座。

成果 参加者数 120人（年間）

備考 毎年実施している講座であり、継続して参加している方も多い。そのため年々参加者の理解や知識が深まっている様子を感じている。また、植物の話題を通して参加者同士で情報交換などが行われている様子も見受けられる。

【事業名】保存科学講座（全6回）

目的 多種多様な文化財を保存する方法や製作方法について興味関心を高める。

内容 様々な劣化要因から資料を守る博物館の取組や、資料の修復・保存処理・科学分析などに関して学ぶ通年講座。

成果 参加者数 99人（年間）

備考 少数人数で前半を座学、後半を実習形式として行ったため、内容の濃いものとなった。また、博物館に展示されている資料が、いかに守られているかを知ってもらう良い機会にもなっている。今後も内容を変えながら実施し、展示資料を違った側面から見てもらえるように行っていきたい。

【事業名】民俗学講座（全6回）

目的 県内の民俗文化や民俗文化財のほか、民俗学という学問について学ぶ通年講座。

内容 肥後琵琶、柳田民俗学、民具、ケガレ論など座学を中心におこなった。

成果 参加者数 88人（年間）

備考 金曜開催のためか、内容か、年齢層が高かった。

【事業名】くまはくのゆるゆる美術部（全3回）

目的 熊本市内の「美術」について調べたり学んだりする通年講座。

内容 初回は美術工芸分野の収蔵品の中から熊本の絵画に関する講義を実施した。第2回目は正海裕人氏（正海刀剣研磨処）を招いて、刀剣の取扱いについて講演いただいた。第3回目は来迎院（熊本市西区春日）にてご住職にご講演いただいたほか、仏像および万日塔などを見学した。

成果 参加者数 62人（年間）

備考 熊本博物館に「美術品」があることが知られていないため、周知するきっかけとなった。有名な作品だけでなく、地元にもどのような美術や文化が育まれてきたの

かを受講生に知っていただく機会となった。

【事業名】 こども科学・ものづくり教室

目的 熊本博物館は開館以来、自然・文化・歴史資料などの保存・継承と、それらの価値や魅力を発信する拠点としての役割を果たしてきた。これに加え、現在は多様化する人々のニーズに応じた学習活動の支援をはじめ、多面的な機能を発揮することが求められるようになってきている。そのような中、当館では青少年が楽しく活動しながら自然科学の原理や技術（歴史や伝統文化に関する内容も一部含む）を体験的に学ぶことのできる機会を提供する目的で、平成11年度より「子ども科学・ものづくり教室」を開催している。

内容 小中学生を主な対象に、色と光、振動と回転、空気と真空、電磁気、力学などをテーマとした内容のほか、葉脈標本作り、アンモナイトのレプリカ作り、銅鏡のレプリカ作りなど、植物、地質、考古、保存科学分野に関する内容も取り入れ、内容の充実を図った。また、NPO 団体（日本アマチュア無線連盟熊本県支部）や崇城大学との共催イベントを継続するほか、熊本大学や熊本県立大学との協働イベントなども新規に行った。

※教室の例：コイルモーター作り、半導体教室、プログラミング教室、その他

期間 通年

成果 参加者数 1,366 名（令和4年度：1,040 名）

備考 コロナ禍を経て、徐々に参加者が増えてきた。年齢差・個人差に応じた実技面での指導や運営スタッフの補充など、人材面での協力体制構築を図りながら、今後とも大学や高専、民間団体とも連携した事業展開により、教室の魅力を高めていく。

【事業名】 こども自然学び教室

目的 市民の自然科学への関心を高め、生涯学習を推進することを目的とした学芸員による体験学習教室。

内容 自然に関する室内体験教室と野外観察会を実施した。

期日と成果

●室内体験教室

- | | | |
|-------------------------------|-----|-----|
| ・6月11日（日）草木染体験 | 参加者 | 30人 |
| ・12月10日（日）古生物のクリスマスツリーかざりを作ろう | 参加者 | 38人 |
| ・1月21日（日）ちりめんモンスターをさがしてみよう！ | 参加者 | 43人 |

●野外観察会

- | | | |
|-------------------------|-----|-----|
| ・7月23日（日）夏休み清和村自然観察会 | 参加者 | 29人 |
| ・8月6日（日）身近な生きもの観察会 | 参加者 | 26人 |
| ・11月11日（土）化石と海辺のいきもの観察会 | 参加者 | 32人 |

(2) 学校教育支援事業（館報 P36～）

【事業名】 ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）

- 目的** 博物館が有する価値ある収蔵資料及び学芸員・研究員の専門知識や技能を学校の授業に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。
- 内容** 学芸員・研究員を小学校「社会科・理科」の授業を中心にゲストティーチャーとして派遣（総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣も一部あり）。所管する資料や担当者の専門知識・技能を駆使し、学習内容の充実を図るとともに教育効果を高める（可能な範囲で派遣中）。
- 期間** 年間を通して要請に応じて実施。
- 成果** 延べ 20 校（大津高校、第二高校、西原小、出水小、砂取小、菱形小など）で 29 時間分の授業対応をした（Zoom 遠隔解説等 6 時間を含む）。
- 備考** 派遣授業で用いるプログラム集（第 3 版、HP でも閲覧可）を基に、その内容をカスタマイズして実践中。他業務との兼ね合いで希望に添えない場面もあるが、できるだけ早めにご相談いただくことで調整に努めている。また、Zoom 等の効果的な活用場面を探りつつ、遠隔授業・遠隔解説も継続する。

【事業名】 館内学習支援活動（お迎え事業）

- 目的** 「館内学習プログラム集」を活用し、学校団体利用時におけるオリエンテーションや講堂等での座学において館内展示資料（数点）の価値や魅力を紹介することで、館内見学（学習）への興味・関心を高める。
- 内容** 当館の講堂及び実験・工作室を活用し、担当の学芸員が所管する展示物の魅力や価値を補足資料等も交えながら紹介することにより、館内見学に対する期待感を高めるとともに、見学・学習の視点を与える。学校団体予約時に館内学習プログラム集の中から 1～2 題材（1 題材：15～20 分間程度）を選んでもらい要請に応じて実施している。
- 期間** 通年
- 成果** 延べ 59 校（松橋高校、文徳中、芳野中、五福小、河内小、山本小など）で、69 プログラム以上を実施（前年度は、全 40 校・延べ 66 プログラム）。そのほかにも、2 名の教育普及支援員による短時間の展示解説等も多数行った。
- 備考** 館内学習については、夏の教職員研修講座、校長・園長会等で事業内容について繰り返し触れながら広報・周知に努めている。今後も実践を通して、プログラム内容の改善を図ったり教材・教具の工夫を行ったりしてより魅力的な館内学習を提供・展開できるよう取り組んでいく。

【事業名】 熊本博物館・スクールシャトルバス事業（お迎え事業）

- 目的** 小学校で社会科・理科学習がスタートする中学年（3 年生または 4 年生）の子どもたちを主な対象として当館に招待し、未知・既知の学習資料の価値や魅力

- に触れる機会を提供することで、新たな学びへの興味・関心を高める。
- 内 容** 令和5年度（2023年度）からは市内全域・全小中学校を対象にして希望を募り、抽選で10校程度を当館又は塚原歴史民俗資料館に招待する事業に改めた。上記の目的を達成し、併せて学校教育支援事業（博学連携）強化の一助とするため、当選校（招待校）と当館及び塚原歴史民俗資料館を結ぶスクールシャトルバスを借り上げて運行。博物館ではプラネタリウム学習投映、館内学習プログラム体験（1～2本）、館内展示物見学などを実施し、塚原資料館では勾玉づくり体験や館内展示物見学、屋外での古墳公園見学等を行った。
- 期 間** 令和5年（2023年）9月～3月中旬
- 成 果** 事業対象校は13校で、参加校の引率者（33人）と参加児童（773人）に対してアンケート調査を行った結果、プラネタリウム視聴・館内学習・展示物見学・資料館見学・体験学習等、いずれも高評価・好意的な記述が見受けられ、次年度の参加を希望する感想も例年同様に多かった。
- 備 考** 本年度も市内全域の小中学校に参加希望を募り、予算の範囲内で抽選によって10校余りを招待する（本事業は本年度末で終了）。
次年度以降は金峰山少年自然の家が再開することになるため、宿泊教室時のプラネタリウム観覧（学習投映）促進に向け、準備を進めていく。

【事業名】 KEW（熊本エデュケーションウイーク）

- 目 的** 令和2年度（2020年度）から熊本市が主体となって始めた取組で、熊本博物館は令和3年度（2021年度）より参画。当館が行っている「博学連携事業」の一端を、学校関係者、社会教育関係者、児童・生徒・保護者、一般の方向けに周知し、さらなる連携促進の契機とする。
- 期 間** 通年
- 内 容** 令和3年度（2021年度）は館内での学習支援活動の様子、各学校に出向いて行うゲストティーチャー派遣授業の様子、それらと関連したZoomによる遠隔授業・遠隔解説、オンライン学習支援の取組等を紹介し、令和4年度は教職員向け研修講座、学生を主な対象とした博物館実習、中学生・高校生対象のナイストライ事業・インターンシップなど、博学連携事業の中の「各種受入れ事業」を紹介した。
令和5年度（2023年度）は、学芸員や研究員が行っている様々なイベントを紹介し、大人から子どもまで、博物館活動に興味を抱いてもらえるよう工夫を凝らした。
- 成 果** 令和5年度（2023年度）も、20分番組の動画を制作・配信することができた（YouTube：熊本エデュケーションウイーク）にて視聴可能。当館の博学連携事業や各種イベントの概略を対外的に紹介できるコンテンツがさらに1本増えた：全3本）。
- 備 考** 熊本市は令和12年（2030年度）までKEWの取組を継続する予定であり、当

館としても発信する内容の検討及び、持続可能な事業展開に不可欠な人材・時間・機材の確保等が大きな課題である。令和6年度（2024年度）は「各種イベント Part. 2」を紹介予定。

（3）講師派遣（館報 P45）

【事業名】 学校 PTA 活動・社会教育施設開催講座等での活動支援

内 容 学校 PTA 活動や公民館等の社会教育施設で開催される行事や講座での講師を務め、内容の充実及び活動目的の達成のための支援を行う。

八代市立博物館友の会・九州文化財保存額研究会・崇城大学・出水南小学校・あさぎり町教育委員会・飽田公民館など、19 の団体からの要請を受けて学芸班職員を館外派遣した。

期 間 令和5年（2023年）5月～2月

成 果 参加者総数 913名

備 考 館外にて、学芸班職員の専門分野に関する講座・教室等の支援を行った。昨年度に比べて要請件数・参加者数は共に増加した。今後も対応可能な範囲で博学連携・博社連携活動への協力を継続していく。

（4）教職員研修（館報 P46）

【事業名】 教職員向け研修講座～館内学習プログラム解説編～

目 的 学校教育支援事業（お迎え事業）で活用する「館内学習プログラム集（全54題材）」について、その冊子の中で紹介している館内展示物等を幾つかピックアップし、その価値や魅力を各担当学芸員が教師向けに直接伝える機会とする。

内 容 午前中に自然系プログラム、午後に人文系プログラムを紹介した。講堂及び実験・工作室での座学や教材・教具を使った実習、展示室に移動しての解説・補足説明を行ったほか、質問にも応じた。

期 日 令和5年（2023年）8月21日（月）

①9:00～11:45（自然系解説）、②13:15～16:00（人文系解説）

成 果 午前・午後合わせての参加者：17人。学習プログラム及び活用資料・展示資料の魅力や価値（の一端）を伝えることで博物館を身近に感じていただき、参加者からは好意的な感想が多く聞かれた。

備 考 これまで同様、参加者を午前・午後とも10人程度に絞って開催。参加者の満足度を高め、今後の利活用を促すうえでも、新規プログラムの開発や内容の改善等に努めていく。

【事業名】 向山幼稚園職員研修

目 的 幼稚園児でも体験可能な実験・工作等について在園職員の理解を促す。

- 内 容 こども科学教室等で取り扱っている題材の中から比較的簡単なものを紹介し、実際に作って遊ぶ体験活動を行った。
- 期 日 令和5年（2023年）7月25日（火）9:00～12:15
- 成 果 参加者数 8人
- 備 考 幼稚園・保育園に対する博学連携メニューが少ないが、現場の声を参考にしながら今後も可能な範囲で対応していく。

（5）博物館実習等（館報 P46）

【事業名】博物館実習受入れ

- 目 的 学芸員資格取得を目指す大学生を受け入れ、様々な博物館活動に関する実習を行った。
- 内 容 実習期間 令和5年（2023年）8月23日（水）～8月28日（月）（6日間）
 ・1日目 オリエンテーション、館内見学、管理事務・設備概要
 ・2日目～6日目午前
 （自然系）動物・植物・地質・天文・保存科学実習、ミュージアムカフェ、プラネタリウム対応、博学連携概要、課題製作
 （人文系）考古・歴史・美術工芸・民俗・保存科学実習、撮影実習、プラネタリウム対応、博学連携概要、課題製作
 ・6日目午後 展示課題発表・まとめ
 受け入れ大学 熊本大学7名、崇城大学1名、東亜大学1名、広島大学1名、八洲学園大学1（計11名）
- 備 考 実習内容については、各分野の業務に近いことを体験してもらった。これに加えて実習生には展示体験として、展示資料の選定、準備、展示説明という一連の流れを体験してもらった。次年度はさらに受け入れ側の当館も内容をブラッシュアップし、より充実度の高い実習を目指したい。

【事業名】社会教育実習

- 目 的 社会教育主事の資格取得（単位取得）に必要な社会教育施設での実習受入れを行った。
- 内 容 こども科学教室の準備・プラネタリウムの券売補助、バックヤード見学、学芸業務体験（動物・植物分野）、来館者対応（接客）等の実務の一端を実際に体験する機会を設けた。
- 期 日 令和5年（2023年）8月23日（水）～8月24日（木）：2日間
- 成 果 参加者数 1人（青山学院大学3年生）
- 備 考 社会教育実習の受入れは当館でも初めてであり、博物館実習の内容も加味しながら試行的に取り組んだ。今後も要請があれば対応を検討する。

(6) 職場体験・インターンシップ (館報 P46)

目的 社会体験学習（生涯教育、ライフスキル教育）の一環として熊本市内の中学校・高等学校が実施する「ナイス・トライ」、「インターンシップ」において、本館での学習を希望する生徒を受け入れ、様々な博物館活動に関する実習を行った。

【事業名】 職場体験（ナイス・トライ）

期間 令和5年（2023年）9月5日～9月7日（3日間）

内容 ・1日目 オリエンテーション、館内見学、学芸員業務体験
・2日目 学芸員業務体験、まとめ

学校名 京陵中学校3名（9/5～9/6）、西山中学校4名

【事業名】 職場体験（インターンシップ）

期間 令和5年（2023年）7月4日～7月6日（3日間）

内容 オリエンテーション・館内見学・来館者対応・学芸業務体験・総務企画業務等の機会を提供。

学校名 湧心館高等学校（4名）

備考 ナイス・トライ、インターンシップともに、実習内容は各分野ごとに実際の業務（の一端）に触れさせることで職業観や勤労観の醸成につながるよう工夫した。各生徒のお礼文には、本館での学習体験への満足感とこれからの社会人としての生き方を学ぶ基礎となったという感想が多かった。

【事業名】 大学からの見学・観覧受入れ

目的 大学の講義の一環として、館内見学やプラネタリウム視聴をしたり、博物館業務に関する講義を受けたりする機会を提供した。

実績 7月中（大学3校、専門学校1校）10月中（大学1校）

学校名 崇城大学・九州ルーテル学院大学・東海大学・日本総合教育専門学校

備考 今後も要請に応じて対応可能な限り受入れを行う。

(7) ホームページコンテンツ (館報 P47)

【事業名】 HP コンテンツ「くまはくオススメ！資料・実験工作・観察法・エトセトラ 紹介・解説コーナー」

内容 新型コロナウイルス感染症の拡大防止（流行抑制）対策の一環として公開したページ「博物館流自然観察・科学工作のススメ」を再構成し、新規コンテンツを加えて「くまはくオススメ！資料・実験工作・観察法・エトセトラ 紹介・解説コーナー」として令和5年（2023年）10月6日（金）より公開し、順次更

新中。

期 間 通年

(8) 天体観察会 (館報 P47)

【事業名】 星空観賞会

内 容 サクラマチクマモトや熊本県スポーツ振興事業団・ミズノグループ等との協働により、望遠鏡などを用いて星座や天体を観察する機会として実施。

期 間 令和5年(2023年)6月21日(令和5年度は1回のみ)

成 果 参加者数 50名

4 行事・イベント

(1) 講演会等 (館報 P48)

【事業名】 現地案内「くまはく学芸員指南!熊本城攻略法—石垣の見方・歩き方—」

期 日 令和5年(2023年)10月28日(土)10:00~12:00

会 場 特別史跡熊本城跡(有料エリアを除く)

講 師 当館考古担当学芸員

内 容 これまでの石垣特有の見方ではなく、歴史考古学の研究手法に基づいた石垣の見方を「ホンモノ」の石垣を目の前にして解説。

成 果 34人

【事業名】 シンポジウム「ここまでわかった!!加藤清正・忠広—熊本城と支城から見つめ直す—」

期 日 令和5年(2023年)12月2日(土)12:55~17:00

会 場 熊本市市民会館シアーズホーム夢ホール 大会議室(小ホール)

講 師 木下 泰葉 氏(熊本市熊本城調査研究センター文化財保護主任主事)

大浪 和弥 氏(宇土市教育委員会文化課学芸員)

大津山 恭子 氏(山都町教育委員会生涯学習課学芸員)

鳥津 亮二 氏(八代市立博物館未来の森ミュージアム学芸員)

当館考古担当学芸員

内 容 秋季企画展「清正から受け継いだ名城—加藤忠広と熊本城—」の開催に伴う考古学的な調査・研究の成果概要を紹介した上で、今回の展示で採り上げた城跡の城主や出来事に注目。城主・出来事については、文献史学的研究(文字資料)からのアプローチは欠かせないため、本シンポジウムでは、文献史学的研究で一定の成果を持つ熊本城関連城跡の文献史学の担当者に、最新の研究成果

をご紹介いただき、それらの内容について考古学の立場から欲しい情報などを聞き出すという内容。いわゆる城の時代は、遺跡と文字資料がそれぞれ遺されており、両者の資料を考古学と文献史学の各研究ルールに沿いながらバランスよく扱う必要があり、その難しさやそうした調査・研究上から得られる豊富な歴史像のすごさ・楽しさについて広く市民の皆様に普及啓発することを目的とした。

成 果 153人

- 【事業名】企画展「資料保存の世界ー未来へつなぐ文化財の裏側ー」
講演会「身近に潜む文化財の裏側ーお宝を食べてしまう虫について」
- 期 日 令和6年（2024年）3月17日（日）14：30～15：30
- 会 場 プラネタリウム
- 講 師 木川 りか 氏（九州国立博物館 科学課課長）
- 内 容 身近に潜む文化財害虫や被害例などを紹介。
- 成 果 49人
- 備 考 参加者には当企画展で作成したクリアファイルやマグネットを配布した。

（2）ゴールデンウィークイベント（館報 P48～49）

- 【事業名】G・Wは熊博へ！
- 内 容 学芸班職員の専門性を活かし、博物館活動の多面的な魅力を伝える目的でGW期間中に開催。「身近な生きもの観察会（動物）」「石庖丁をつくろう！（考古）」など、全部で10種類のイベントを実施。
- 期 間 GW期間中の土日・祝日
- 成 果 参加者総数 322人
- 備 考 学芸班職員がイベントを企画・実施、総務企画班が広報を担当する形で総合博物館の魅力を館全体として発信するよい機会だと捉えている。今後も多くの来館者を迎えらるよう、運営面・内容面共に工夫・改善に努めていく。

（3）夏休みイベント（館報 P49）

- 内 容 学芸班職員の専門性を活かし、博物館活動の多面的な魅力を伝える目的で夏休み期間中に開催。「自由研究相談会（自然系分野）」「JAL 航空教室 in 熊博」など、2種類のイベントを実施。
- 期 間 令和5年（2023年）7月22日（土）、8月19日（土）、9月24日（日）
- 成 果 参加者総数 187人

(4) くまはく誕生月間 (館報 P49~50)

- 内 容 学芸班職員の専門性を活かし、博物館活動の多面的な魅力を伝える目的で2月の誕生月間中に開催。「野鳥観察(動物)」「カラフルアンモナイト(地質)」など、全部で12種類のイベントを実施した(期間中に3回来館された方にはミニ水晶をプレゼント)。
- 期 間 誕生月間(2月)の土日・祝日等
- 成 果 参加者総数 437人
- 備 考 学芸班職員がイベントを企画・実施、総務企画班が広報を担当する形で総合博物館の魅力を館全体として発信するよい機会だと捉えている。今後も多くの来館者を迎えらるよう、運営面・内容面共に工夫・改善に努めていく。

(5) サタデーナイトミュージアム (館報 P50)

【事業名】開館時間延長イベント「サタデーナイトミュージアム」

夏季の熊本城開園時間延長期間および秋のお城まつり開催期間中に周辺施設と連携し、当館への市民の関心を高めるとともに、博物館活動の多面的な魅力を伝えるため開館時刻を21時まで延長し、イベント等を実施した。

(ア) 夏季

- 期 間 令和5年(2023年)7月29日(土)、8月19日(土)
17:00~21:00(入場 20:30迄)
- 内 容 特別展示室において、「新世界『透明標本』展」の展示解説(ミュージアムトーク)や、ナイトプラネタリウムとして「水の惑星」の投映を行った。
- 成 果 入場者 7月29日(土): 1,279人(17:00以降入場者 87人)
8月19日(土): 1,334人(17:00以降入場者 154人)

(イ) 秋季

- 期 間 令和5年(2023年)11月18日(土)、11月25日(土)
17:00~21:00(入場 20:30迄)
- 内 容 企画展「清正から受け継いだ名城ー加藤忠広と熊本城ー」の展示解説(ミュージアムトーク)や、ナイトプラネタリウムとして「星空交響曲」「スター・オブ・ファラオ」の投映、体験型イベント(虹のシートをのぞいてみよう・肥後琵琶鑑賞・鑄造実演・ふしぎな卵を作ろう・動物ミュージアムトーク・葉っぱの絵はがき作り)を行った。
- 成 果 入場者 11月18日(土): 340人(17:00以降入場者 80人)
11月25日(土): 631人(17:00以降入場者 300人)

(6) その他 (館報 P51~52)

【事業名】「地質の日」関連企画 身近に知る「くまもとの大地」

期 間 令和5年(2023年)5月21日(日) 10:00~16:00

内 容 5月10日「地質の日」にあわせて県内の大学、博物館、ジオパーク、地質関係団体等が合同で展示・イベントを開催するもの。熊本博物館からは鉱物パンニング体験と立田山の地質プロジェクションマッピングを出展した。

参加者 413人

【事業名】生物多様性の日イベント

期 間 令和5年(2023年)5月20日(土)、21日(日) 10:10~14:50

内 容 平成30年(2018年)より実施している生物多様性の日イベント(いきものフェアくまもと2023)。生物多様性について学ぶ参加・体験型プログラムの1つとして観察会やガイドツアー、講演会などを実施した。

場 所 熊本市動植物園

5 資料の収集・保存 (館報 P60~)

(1) 収蔵資料

資料点数 151,764点 (2024.3.31現在)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
地質	20,112	20,172	20,182	20,233	20,846	20,968	21,003
動物	58,321	58,930	60,792	63,232	65,833	67,816	68,590
植物	16,742	16,766	16,865	16,897	16,964	17,048	17,132
理工	137	135	135	137	137	137	137
考古	10,217	10,224	10,224	10,224	10,230	10,226	10,226
歴史美工	15,175	18,138	18,469	18,773	17,121	17,401	18,057
民俗	13,319	13,558	13,561	13,823	14,449	16,701	16,619
総計	134,023	137,923	140,228	143,319	145,580	150,297	151,764

※上記は登録済みの点数であり、未整理・未登録の資料は含まない。

※各年度末における累計点数

(2) 寄贈

日付	資料名	点数
4. 4	800型ミニプッシュホン	1
4. 21	沼澤家資料（森一鳳掛軸ほか）	48
4. 22	熊本縣下飽田郡高橋町市街震災被害眞圖	1
4. 28	刀剣製作工程サンプル	19
5. 10	杉谷雪樵『道中風景図巻』の画稿ほか	12
5. 18	袖搦	1
7. 15	天冠	1
8. 10	脇差（東肥國直宗／文政九年八月日）ほか	10
9. 14	光永式水陸両用引型溝上機械 宣伝チラシほか	4
9. 16	個人所蔵化石コレクション	300
9. 16	シロマダラ	1
9. 30	内柴御風短冊・屏山短冊	2
10. 5	さく葉標本	56
10. 13	清田家資料	140
11. 8	田口家資料（細川刑部家関係資料、近代版本類他）	200
11. 17	掛軸（中山黙齋《韓信股くぐり図》）	1
12. 3	看板	1
12. 22	浮世絵、掛軸（堅山南風《僧庵の秋》）ほか	11
3. 12	清永家資料（屏風、人形類）	40
3. 25	森本家資料（掛軸、人形類）	100

(3) 資料修復

【事業名】館蔵資料の修復（館報 P64）

目的 収蔵品の調査研究、展示、長期的保存のため、手入れ、修理、高精細画像の撮影を行っている

内容 収蔵刀剣類について、手入れを年4回実施した（正海刀剣研磨処）。
また、刀剣類8件について写真撮影を行った（株式会社テレビせとうちクリエイト）。「紅糸威二枚胴童具足（1領）を修復（西岡甲房）。

成果 刀剣を定期的に入手入れすることによって資料の状態確認ができ、錆等の発生を早期発見、予防することができる。高精細画像の撮影によって、資料の現状確認ができるほか、肉眼では確認しづらい細部の状態を記録することができる。

【事業名】 理工分野：蒸気機関車の維持管理（館報 P64）

目 的 大気汚染防止法の改正に伴うアスベスト調査が必要となり、屋外展示物の観覧者の安全・安心確保のため、蒸気機関車の定点部材及び周辺大気への飛散防止状況を確認する（令和4年度（2022年度）から毎年実施）。

内 容 蒸気機関車 69665号機の配管・断熱部分及び、車体前後の周辺大気について上記のアスベスト飛散防止状況調査を行う（再春館安心安全研究所）。

成 果 製造以来100年を超えた蒸気機関車の適切な維持管理の一助となっている。

6 広報活動・刊行物

【事業名】 SNS等を活用した広報及び学習情報の発信

期 間 通年

内 容 来館していただく方だけでなく、別の場所に居ながらにして博物館の存在価値や魅力を発信するため、創出するため、幅広い世代のコミュニケーションツールとして利用されているSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用し、積極的な広報や学習情報の発信を行う。

成 果 ・公式 YouTube チャンネル 登録者数 699人（前年度520人）
 ・公式 X（旧 Twitter） フォロワー数 5,265人（前年度3,569人）
 ・公式 Instagram フォロワー数 1,058人（前年度570人）
 ・公式 facebook フォロワー数 367人（前年度251人）
 ・熊本市塚原歴史民俗資料館 公式 facebook
 フォロワー数 719人（前年度420人）

《参考》 ※令和6年(2024年)8月9日時点

備 考 今後も引き続き、館公式の「ホームページ」をはじめ、「X（旧 Twitter）」、「Instagram」、「Facebook」、「YouTube」「LINE」等をフルに活用し、様々な「世代」「地域」「嗜好」などに合わせた発信を行う。

- ・Youtube 収蔵品や展示品、企画展、講座・教室の情報等（動画）
- ・Twitter リアルタイム性と情報拡散力の高い情報等（文字、画像）
- ・Facebook オールラウンドな情報等（文字、画像）
- ・Instagram ビジュアル性の高い画像等（文字、画像）

【事業名】 刊行物の発刊（館報 P57）

成 果 企画展「清正から受け継いだ名城 加藤忠広と熊本城」展示図録
 企画展「清正から受け継いだ名城 加藤忠広と熊本城」成果報告集
 「文化財大好き昆虫（文化財害虫）図鑑」（企画展「資料保存の世界」関連刊行物）

熊本博物館ニュース 年12回発行
くまはくニュースレター 年2回発行
2022年度報告「館報」
熊本博物館常設展示ガイドブック
資料整理目録5（歴史） 「山崎アルバム」
美術工芸分野資料整理目録（2） 絵画目録（1）
「令和5年度熊本博物館 考古資料 蔵出しパンフレット
樺番城窯跡出土品 -中世須恵器の窯資料-」

7 入館者状況

（1）令和5年度（2023年度）熊本博物館入場者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	区分別合計
一般	3,016	4,055	3,348	8,157	17,668	5,787	3,212	3,860	2,343	2,340	4,858	3,926	62,570
高校・大学生	139	228	190	725	1,840	567	174	165	253	128	260	323	4,992
小・中学生	965	1,859	1,060	3,905	9,391	2,441	2,095	2,961	1,024	1,093	2,585	1,258	30,637
未就学児	353	705	2,226	2,277	2,823	1,166	508	511	395	412	1,005	564	12,945
月別合計	4,473	6,847	6,824	15,064	31,722	9,961	5,989	7,497	4,015	3,973	8,708	6,071	111,144

（2）令和5年度（2023年度）プラネタリウム観覧者数【（1）の内数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	区分別合計
一般	1,194	1,614	1,671	2,793	4,615	1,546	1,237	1,120	732	882	1,647	1,222	20,273
高校・大学生	85	136	105	250	457	211	151	104	87	94	182	215	2,077
中学生以下	920	1,150	2,625	3,415	4,416	1,471	1,376	1,393	821	1,000	1,516	1,160	21,263
月別合計	2,199	2,900	4,401	6,458	9,488	3,228	2,764	2,617	1,640	1,976	3,345	2,597	43,613

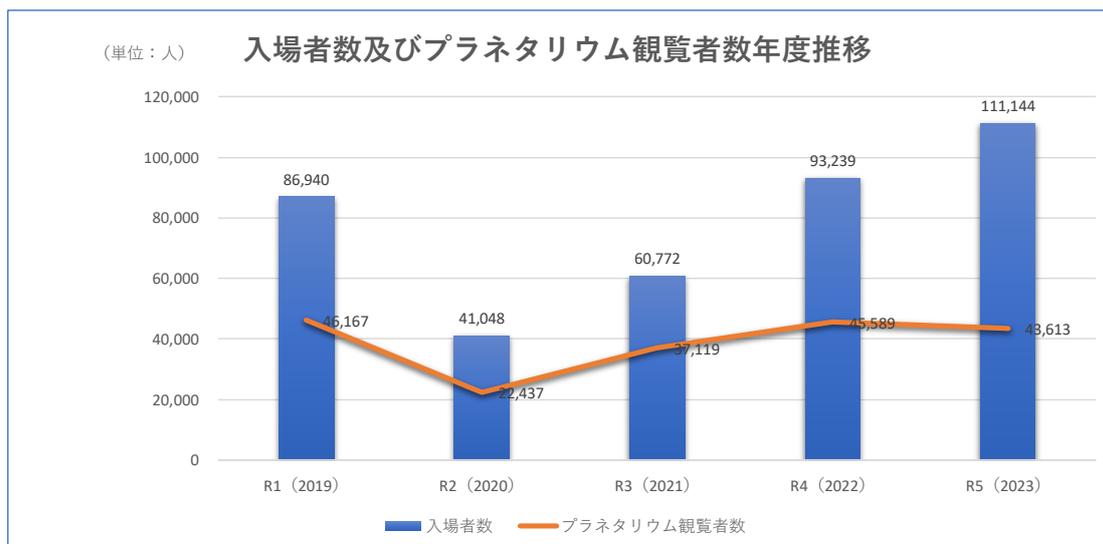
※休館日における学習投映を含む

（3）入場者数年度推移

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度別合計
R1 (2019)	5,855	7,597	7,289	10,277	21,032	4,138	8,358	6,582	4,544	5,790	5,478	0	86,940
R2 (2020)	0	803	3,866	4,294	5,117	3,660	4,935	6,380	2,785	1,441	3,464	4,303	41,048
R3 (2021)	3,122	0	254	10,099	11,377	4,717	5,570	7,466	3,733	2,310	7,828	4,296	60,772
R4 (2022)	3,981	4,865	5,958	15,038	22,881	8,328	6,459	7,311	3,981	3,228	6,168	5,041	93,239
R5 (2023)	4,473	6,847	6,824	15,064	31,722	9,961	5,989	7,497	4,015	3,973	8,708	6,071	111,144

（4）プラネタリウム観覧者数年度推移【（3）の内数】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度別合計
R1 (2019)	3,820	4,417	5,200	6,072	9,189	2,282	3,679	2,703	2,497	3,643	2,665	0	46,167
R2 (2020)	0	0	1,756	2,866	3,414	2,128	2,624	3,181	1,435	873	2,153	2,007	22,437
R3 (2021)	1,588	0	206	7,716	8,796	3,159	3,634	3,556	2,135	1,218	2,881	2,230	37,119
R4 (2022)	2,009	2,469	4,401	7,396	11,140	3,628	3,022	3,269	2,012	1,761	2,295	2,187	45,589
R5 (2023)	2,199	2,900	4,401	6,458	9,488	3,228	2,764	2,617	1,640	1,976	3,345	2,597	43,613



※R5年度（2023年度）開館日：309日

【塚原歴史民俗資料館関係】

1 展示

パネル巡回展（館報P143）

【事業名】2023【全国巡回展】～Kid's 考古新聞コンクール

期 間 令和5年（2023年）10月1日（日）～10月29日（日）（開催日数）25日

場 所 塚原歴史民俗資料館 特別展示室

内 容 Kid's 考古学研究所主催の2023【全国巡回展】～Kid's 考古新聞コンクールを共催展として実施した。

成 果 入場者 330名

備 考 同展示会は毎年開催されており、全国の考古学少年・少女のアイデアあふれる内容の作品が並んだ。すべて手書きであり、制作した子どもたちの特色があふれて面白い。

企画展（館報P143）

【事業名】「世界の昆虫展 in 塚原」

期 間 令和5年（2023年）8月13日（日）～8月19日（土）（開催日数）6日

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 熊本博物館が所蔵する世界の昆虫標本の展示と合わせて、三宅貴広氏所有の生体

展示を行った。

成 果 入場者 236 人

備 考 標本もさることながら、生体展示は非常に好評であった。

【事業名】 史跡 塚原古墳群展 ～発掘・保存・整備そして今～

期 間 令和5年（2023年）10月31日（火）～12月24日（日） （開催日数）25日

場 所 塚原歴史民俗資料館 特別展示室

内 容 塚原歴史民俗資料館の開館40周年を記念して、同館建設のきっかけとなった史跡塚原古墳群にスポットを当て、発掘から保存・整備の歴史をたどり、塚原古墳群の今を紹介する。

成 果 入場者 541 人

備 考 大甕を中心に収蔵資料も展示し、パネルによる発掘当時の様子を再現した展示となった。

2 教育普及

（1）教室・講座（館報P143～）

【事業名】 古文書講座（全10回）

目 的 書状などの資料をもとに「熊本の資料に見る幕藩体制」について理解を深める。

期 間 通年（5月～2月）

内 容 受講年齢制限なしの通年講座。例年は月1回、第3日曜日に開催している。通常通り5月から2月まで毎月開催することができた。

成 果 受講者数 276 人（年間）

備 考 前年度に引き続き、熊本史学会会員の花岡興史氏に講師をお願いした。

【事業名】 考古学講座（全10回）

目 的 資料館周辺の原始から古代にかけての文化について理解を深める。

期 間 通年（5月～2月）

内 容 年齢制限なしの通年講座。当館及び近隣市町村職員が講師となり、各回テーマを決めて講義を行った。

成 果 受講者数 208 人（年間）

備 考 講師の都合により1回の休講を余儀なくされ、9回の実施となった。

【事業名】 塚原こども体験塾（全9回）

目 的 様々な体験を通して、古代人や伝統のものづくり技術のすばらしさを学ぶ。

期 日 通年（6月～2月）

- 内 容 小学5・6年生対象の通年講座。当館で実施している体験学習を経験してもらい、
伝統文化のすばらしさ、楽しさを学んだ。
- 成 果 参加者 27人（年間）
- 備 考 少人数であったため十分な体験ができた。

（2）体験学習（館報P144～）

【事業名】 編布コースターづくり教室

期 日 令和5年（2023年）4月16日（日）

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 年齢制限なしのワークショップ型体験教室。縄文時代から編まれている編布編の
手法でコースターを作成した。

成 果 参加者 13人

【事業名】 土器づくり教室（春）、（秋）

期 日 春：令和5年（2023年）4月23日（日）、秋：10月29日（日）

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 年齢制限なしのワークショップ型体験教室。縄文・弥生土器の製作技法である輪
積法により制作した土器を雲南式土窯により焼成した。

成 果 参加者 （春）15名、（秋）18名

備 考 土器づくりの2週間後に焼成を行い、当日来館できなかった方は後日受け取り。

【事業名】 押し花缶バッジづくり

期 日 令和5年（2023年）5月28日（日）

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 年齢制限なしのワークショップ型体験教室。野草や紅葉した落ち葉の押し花をつ
かったオリジナルの缶バッジを製作した。

成 果 参加者 20名

備 考 押し花はあらかじめ用意しておいた。

【事業名】 榎実鉄砲を作って遊ぼう

期 日 令和5年（2023年）6月3日（日）

場 所 塚原歴史民俗資料館 周辺

内 容 小学生対象のワークショップ型体験講座。竹で作った空気鉄砲に榎実を詰めて的
あてゲームを行った。

成 果 参加者 16名

備 考 榎実は公園内の榎から採集。

【事業名】 藍染体験教室 ～藍の色は愛の色～

期 日 令和5年（2023年）6月25日（日）、7月30日（日）、9月24日（日）、10月22日（日）、令和6年（2024年）1月14日（日）

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室、玄関前

内 容 年齢制限なしのワークショップ型体験教室。持参した布をタデ藍の乾燥葉を使った絞り染めを行った。毎年度人気があることから今年度は5回実施した。

成 果 参加者 97名（年間）

備 考 応募者数は第1回から54名、43名、21名、33名、20名であった。

【事業名】 古代織体験教室

期 日 令和5年（2023年）8月27日（日）

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 年齢制限なしのワークショップ型体験教室。弥生時代以降日本で行われてきた地機による布織体験を実施した。麻ひもとアクリルの毛糸を使い、25cm×30cmの布を織りあげた。

成 果 参加者 16人

備 考 研修室で行ったが、人数をこれ以上増やすことは不可能である。

【事業名】 網代編体験教室

期 日 令和5年（2023年）9月10日（日）

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 年齢制限なしのワークショップ型体験教室。縄文時代の遺跡から出土する網籠や土器の圧痕に残る編み方でコースターを製作した。

成 果 参加者 9人

備 考 網代と枠の作業手順に工夫が必要である。

【事業名】 学芸員と歩く野外博物館（秋）

期 日 令和5年（2023年）10月21日（日）

場 所 塚原歴史民俗資料館 周辺

内 容 年齢制限なしの教室。野草の観察と周辺の遺跡巡り。

成 果 参加者 3人

備 考 例年春と秋の2回実施しているが、今年度は秋のみ実施した。

【事業名】 土器のランプシェードづくり

期 日 令和5年（2023年）11月23日（日）

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 年齢制限なしのワークショップ型体験教室。粘土を板状に延ばし、筒に巻いて胴部を作成。様々な形の透かしを開けて乾燥させ、雲南式の土窯で焼き上げた。

成 果 参加者 18人

【事業名】オリジナル埴輪づくり教室

期 日 令和6年(2024年)1月28日(日)

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 年齢制限なしのワークショップ型体験教室。古墳時代の埴輪づくりと同じ輪積法によるオリジナルの埴輪づくり。

成 果 参加者 21人

備 考 応募が59名あったため、今後は回数を増やすか検討が必要である。

【事業名】土笛づくり教室

期 日 令和6年(2024年)3月3日(日)

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 年齢制限なしのワークショップ型体験教室。卵型に成形した粘土の内側をくりぬき、穴をあけて弥生時代の楽器「土笛」を制作した。

成 果 参加者 25人

備 考 くりぬきの方法に工夫が必要である。

(3) その他の活動(館報P147~)

【事業名】下益城城南中学校火の君教室

期 日 令和5年(2023年)5月19日(金)

場 所 塚原歴史民俗資料館 前庭、古墳公園

内 容 舞切りによる火起こしと塚原古墳群解説。

成 果 参加者 5名

【事業名】下益城城南中学校火の君教室

期 日 令和5年(2023年)10月12日(木)

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 体験教室として編布づくりを指導。

成 果 参加者 5人

【事業名】熊本市教育相談室フレンドリー

期 日 令和5年(2023年)10月20日(金)

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 体験教室として編布づくりと勾玉づくりを指導。

成 果 参加者 38人

【事業名】 下益城城南中学校特別支援学級

期 日 令和5年（2023年）10月26日（木）

場 所 塚原歴史民俗資料館 研修室

内 容 体験教室として土器づくりを指導。

成 果 参加者 12人

（4）博物館実習生の受け入れ（館報P147～）

令和5年（2023年）8月15日（火）～8月20日（日）までの6日間、熊本大学の歴史学科、人間総合学科から各2名、計4名を受け入れ、博物館活動について指導を行った。内容については以下の通り。

8月15日（火）オリエンテーション、館の概要について、企画展基本構想作成

8月16日（水）民俗資料の整理、企画展基本設計作成

8月17日（木）考古資料の整理（被災資料整理作業・記録）、企画展の展示案作成（実施設計）

8月18日（金）考古資料の整理（被災資料整理作業・記録）、企画展の展示案作成（実施設計）

8月19日（土）歴史資料の整理（写真撮影・データベース入力）、企画展の展示案作成（実施設計）

8月20日（日）企画展示案作成（レイアウト案作成）、企画展示案プレゼンテーション、実習報告書作成

（5）職場体験・ナイストライ（館報P147～）

下益城城南中学校の特別支援学級生を対象に、体験学習について学んでもらった。

（6）資料の収集・保存（館報P147～）

【資料特別利用】

令和5年（2023年）6月14日 塚原古墳群航空写真 1点
 (株)浜島書店ライツ管理部

7月19日 塚原古墳群航空写真 1点
 個人

令和6年（2024年）3月5日 円形透孔器台 1点
 愛媛県埋蔵文化財センター

【資料館外貸出】

令和6年（2024年）2月22日～5月27日 陳内廃寺出土 銘入瓦 1点
くまもと文学・歴史館

3 入館者状況（館報 P148）

令和5年度 熊本市塚原歴史民俗資料館入館者数

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
一般	大人	61	106	70	69	168	76	117	107	68	103	96	75	1,116
	小人	6	10	5	2	23	1	1	8	5	3	0	8	72
団体	大人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小人	0	0	0	0	0	0	0	67	0	0	0	0	67
計		67	116	75	71	191	77	118	182	73	106	96	83	1,255

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
免除	大人	70	117	113	124	126	123	122	102	103	72	143	81	1,296
	幼児	8	19	24	12	36	15	10	10	2	14	15	6	171
	小・中生	35	33	54	92	197	145	80	59	10	73	314	169	1,261
計		113	169	191	228	359	283	212	171	115	159	472	256	2,728

合計	180	285	266	299	550	360	330	353	188	265	568	339	3,983
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

議事（2）令和5年度（2023年度）

熊本博物館運営点検評価報告について

目 次

I. 点検評価の概要

- (1) 運営の点検と評価の趣旨 1
- (2) 令和5年度（2023年度）の運営の点検と評価について 1

II. 運営状況の概要

- (1) 主な学芸活動 2
- (2) 主な施設の運営状況 2

III. 熊本博物館の施策体系図 3

IV. 施策についての点検報告

1 学芸活動

- (1) 調査・研究活動 4
- (2) 展示活動 6
- (3) 教育・普及活動 11
- (4) 収集・保存活動 19
- (5) 情報収集・発信 22

2 博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然火災への対策

- (1) 施設利用 23
- (2) 来館者へのサービス、安全管理 24
- (3) 火災、地震等の自然災害対策 26

3 市民参画・協働と他の博物館等との連携強化

- (1) 博物館活動への市民参画・協働 27
- (2) 熊本城とその周辺関連施設と他の博物館との連携 28

1. 点検評価の概要

(1) 運営の点検と評価の趣旨

熊本博物館は昭和 27 年(1952 年)に熊本城内(本丸)に開館し、花畑町の勸業館時代を経て、昭和 53 年(1978 年)に現在の熊本城三の丸地区に新築・移転しました。その後、平成 25 年(2016 年)7 月から工事準備のための本館休館、平成 27 年(2015 年)7 月からは本格的に改修工事を進め(熊本地震の影響による工期の延期もあり)、平成 30 年(2018 年)12 月 1 日、5 年 5 カ月にわたる工期を経てリニューアルしました。

リニューアルオープンの際、熊本博物館の 4 つの理念である「広域情報型博物館」「市民開放型博物館」「郷土立脚型博物館」「人間密着型博物館」を踏まえ、これからの新たな博物館として、運営や活動の充実と向上を図っていく必要があると考えました。

そこで、当館では『熊本博物館リニューアル後の運営方針(平成 30 年 11 月 12 日)』を策定し、同年度の熊本博物館協議会にて提案・承認を受けました。

本年度も、前段『運営方針』の 5 章「運営の検証と評価」に基づき、令和 5 年度(2023 年度)の「2 学芸活動」、「3 博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理、火災・自然災害への対策」、及び「4 市民参画・協働と他の博物館等との連携強化」について、本協議会に報告し、今後の運営の改善と充実を図るため意見を求めるものです。

(2) 令和 5 年度(2023 年度)の運営の点検と評価について

令和 5 年度(2023 年度)は、新型コロナウイルス感染症がゴールデンウィーク明けには 5 類に移行したものの、未だ収束に至らない中、必要な感染症対策と運営面の工夫に努めながら、行事・イベント、講座・教室等は当初の年間計画をベースに各種展示会をはじめ様々な事業を着実に実施してまいりました。また、通常期本来の館運営の状況ではありませんが、令和 5 年度(2023 年度)の実績を基に、点検と評価を行うことにしました。

【運営の点検期間】 令和 5 年(2023 年)4 月 1 日～令和 6 年(2024 年)3 月 31 日

II. 運営状況の概要

(1) 主な学芸活動

企画展・特別展では春季企画展として、立田山の成り立ちや変遷、生息している動植物について紹介する「立田山－身近な自然の魅力－」を開催。

7月からは RKK 熊本放送開局 70 周年を記念した特別展として、熊本博物館、RKK 熊本放送および熊本日日新聞社の 3 者による実行委員会を組織し、夏季特別展 富田伊織 新世界『透明標本』展を実施し、標本作家・富田伊織氏の製作した色鮮やかな透明標本約 500 点を展示することができました。そのほか、「清正から受け継いだ名城－加藤忠広と熊本城－」、「資料保存の世界－未来へつなぐ文化財の裏側－」など、多彩な企画展を開催しました。

教育・普及活動では、多岐にわたる「学校教育支援事業」の中から、主にゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）や館内学習プログラム（お迎え事業）について、校長会や教職員向け研修講座でそれらの内容の紹介を行い、活用促進に努めました。

こども科学・ものづくり教室は、実験・工作室や講堂を主会場として、科学実験・科学工作を中心に理工以外の関連分野の内容も取り入れ、ほかの教育機関・団体とも協働し、内容を充実させました。

情報発信では、収藏品データベースの情報更新はもとより、家庭学習・自然観察に役立つような教育コンテンツを制作し、インターネットでの発信を継続しています。また、展示会や講演会・催しなどについても、当館ホームページ、市ホームページ、市政だより、各種 SNS 等を活用し、情報を提供しています。

このほか、ナイトミュージアムの開催、各種展示会や常設展示物とも連動させた講座・ミュージアムトークなどを行い、展示物の背景や魅力等に迫ることができるよう工夫しました。

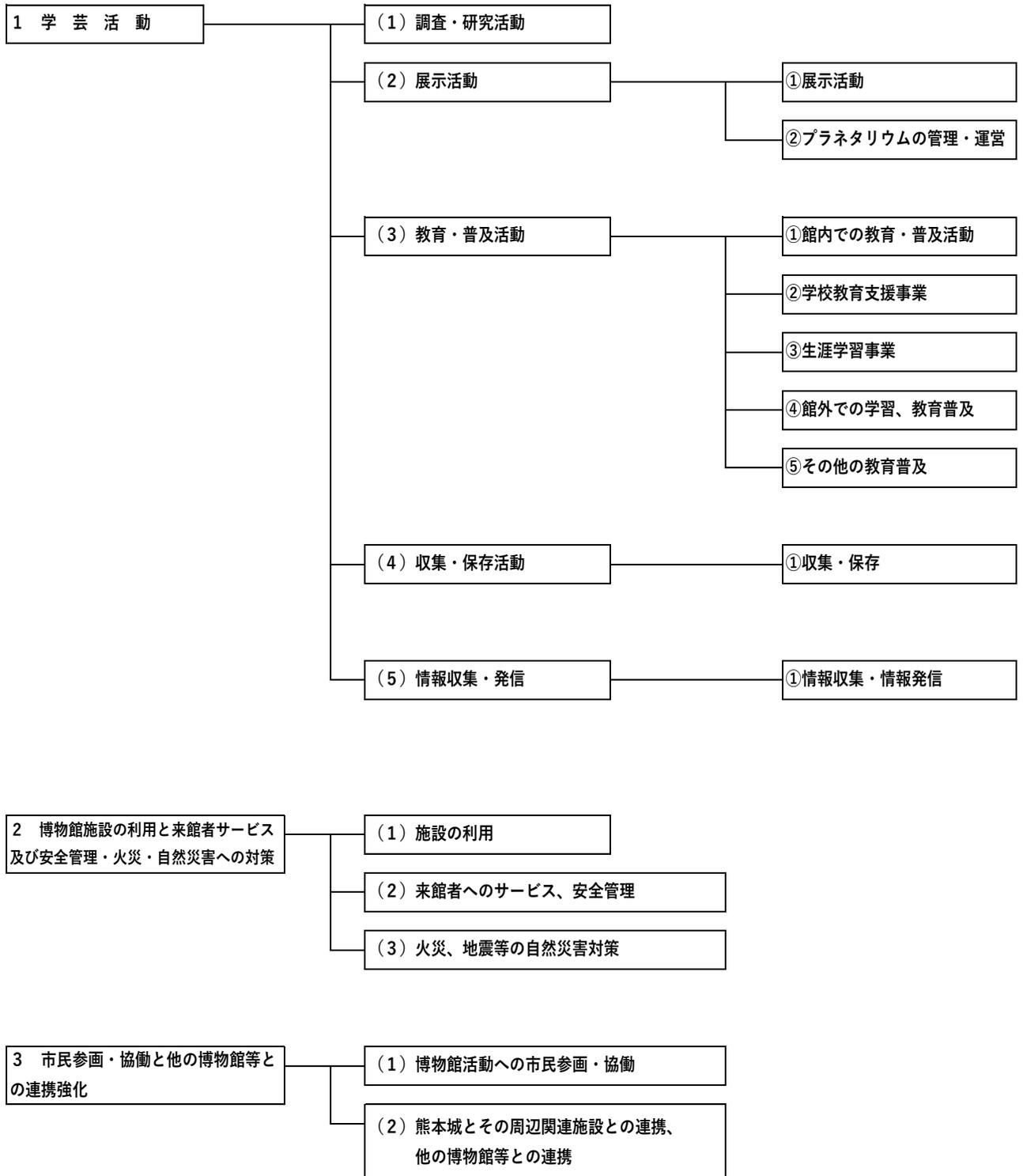
(2) 主な施設の運営状況

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、館内の運用マニュアルを見直し、マスク着用の推奨や手指消毒液の引き続きの設置など、感染症対策を講じながら施設を運営してまいりました。また、三の丸地区における中核施設として、「熊本城」「熊本城ミュージアムわくわく座」「博物館」の 3 館共通券の販売や施設紹介を行うなど、観光案内機能を拡充しています。

火災・災害対策としては、消防計画に地震災害への対応も加え、来館者の安全確保や有事の際の対処の仕方など館内で情報の共有化を図りました。

安全管理については、日常的な施設管理に加え、施設を安全かつ効率的に維持管理できるように、事故の予防に努め、設備管理業務の受託者及び警備業務の受託者と連携を取り適切に運営を行っています。

III 熊本博物館の施策体系図



IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(1)	調査・研究活動
①	調査・研究活動

館報P58～

1 事業の目的・実績

館報P69～

目的	<p>熊本博物館は「考古」「歴史」「民俗」「美術工芸」「地質」「動物」「植物」「天文」「理工」「保存科学」という分野で構成する総合博物館であり、これらの各分野における調査・研究を進め、博物館の活動の質を高めていく。</p>
実績	<p>【館報（2023年度報告）掲載分の調査・研究】</p> <p>(1) 《調査報告》山鹿郡鹿本町分田地区の精霊流しについて 令和6年度企画展のために行った鹿本町分田の精霊流し行事についての参与観察調査の結果を報告したもの。舟の形状、祭日、内容を踏まえて、精霊流しではなく、余興として持ち込まれたのではないかと現時点では考察した。（民俗）</p> <p>(2) 《資料紹介》肥後琵琶師 玉川教照関係資料 令和5年に寄贈のあった肥後琵琶師関係資料について紹介した。資料は肖像、記念番組、撥などであった。玉川教照について先行研究上は氏名がわかる程度だったが、寄贈者からの情報提供により一部来歴が明らかになったことが最も大きな成果といえる。（民俗）</p> <p>(3) 《資料紹介》宮大工関係資料（大工道具類）について 令和4年度に寄贈のあった宮大工関係資料の大工道具を紹介するものである。古記録類は歴史分野が収蔵しているが、その中に阿蘇神社楼門を修理した水民元吉関係の資料が伝来している。大工道具類にも水民弟子筋の道具の痕跡は見られる。（民俗）</p> <p>(4) 《活動概報》当館収蔵の五木村関係資料整理 収蔵庫に関する当館の問題に対応すべく、民俗部門では収蔵資料の整理を行っている。その過程の報告の一例として、今回五木村関係の資料整理について報告したものが本稿である。（民俗）</p> <p>(5) 《資料紹介》熊本博物館収蔵の熊本関係刀剣類について（美術・工芸）</p> <p>(6) 《資料紹介》吉田鳩太郎「嘉永四年公私日記」について 肥後細川藩士吉田鳩太郎が幕末期に記した日記のうち、未紹介となっていた嘉永4年日記を翻刻・紹介。（歴史）</p>

2 工夫と成果・課題等 (※) 上記の調査・研究に関して (例示)

<p>取組において工夫した点</p>	<p>【館報 (2023年度報告) 掲載分の調査・研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で、年間取り組んだ事柄については形にして成果として公表できるように、小まめな情報整理と集約に努めた。(民俗) ・2015～2016年度にかけて実施した刀剣調査をもとに、近年問い合わせ等が増えている当館収蔵の熊本関係の刀剣類について紹介。(美術・工芸) ・(6) 日記内容について、注目されるトピックなどを中心とした資料解題を作成した。(歴史)
<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<p>【館報 (2023年度報告) 掲載分の調査・研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公表した成果はひとつの覚えのようなものであり、今年度活動をまとめた備忘録のようなものである。今後はその内容をより深くしていく作業と、あわせて同様に行った事業については成果として公表・還元できるように努めたい。また、次年度から長期計画で祭礼調査を行う予定であるので、その成果をきちんと反映できるよう努めたい。(民俗) ・今回は収蔵品リストの紹介にとどまる内容となったが、今後は個別に作品研究を行い、紹介していきたい。(美術・工芸) ・(6) 当時「若殿」(のちの藩主慶順)の近習役を務めた鳩太郎の勤務ぶりについて注目。近習職が先例手本(マニュアル)に依存していた実態を明らかにした。紹介すべき歴史資料がまだ多数あるため、計画的に調査研究を進め、文章化していきたい。(歴史)
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行った活動の情報整理と公表、限られた時間の中で最大限成果が出せるように体制や活動を見直したい。(民俗) ・館外と館内の業務のバランスを調整しながら、調査・研究だけでなく、整理や展示などに取り組んでいきたい。(民俗) ・館蔵資料の紹介に努め、館外からの研究利用を促進する。(美術・工芸) ・館蔵資料の紹介に努め、館外研究者からの研究利用を促進する。(歴史)

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(2)	展示活動
①	企画展、特別展等の開催

館報P12～

1 事業の目的・実績

目的	常設展示や特別展、企画展等の開催を通し、市民や国内外からの来館者・観光客に対して魅力的な展覧・鑑賞の機会を提供する。
実績	<p>【特別展・企画展・共催展等の開催】</p> <p>※入場者数は、開催期間中の博物館入場者数 ※各種展示会の開催期間中には、関連するシンポジウム・講演会・展示解説（ミュージアムトーク）・イベントなども行った。</p> <p>(1) 夏季特別展「富田伊織 新世界『透明標本』展」 期間 7月15日（土）～9月3日（日） 入場者数 41,261人</p> <p>(2) 企画展「立田山－身近な自然の魅力－」 期間 3月18日（土）～5月14日（日） 入場者数 8,329人（令和5年4月1日～5月14日）</p> <p>(3) 企画展「清正から受け継いだ名城-加藤忠広と熊本城－」 期間 10月14日（土）～12月17日（日） 入場者数 13,837人</p> <p>(4) 共催展「熊本市遺跡発掘速報展2023」 期間 令和6年2月3日（土）～5月12日（日） 入場者数 14,527人（2/3～3/31）</p> <p>(5) 企画展「資料保存の世界－未来へつなぐ文化財の裏側－」 期間 2024年3月9日（土）～5月12日（日） 入場者数 4,858人（3月9日～3月31日）</p> <p>【その他展示】</p> <p>(6) 常設展示一部変更（轟貝塚が国史跡となったことから、縄文土器コーナーに当館収蔵品の轟貝塚出土資料を展示）（考古）</p> <p>(7) 民俗分野スポット展示（民俗）</p>

2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<p>(1)耳慣れない「透明標本」に興味を持ってもらうため、事前の広報に努めた。(動物)</p> <p>(2)展示だけでなく、観察会やミュージアムトークをとおして身近な立田山をより身近に感じられるよう努めた。(自然分野)</p> <p>(3)秋季企画展は、考古主体の企画ではあったが、展示対象が歴史時代であったことから、人文系分野による学際的な展示となるように心がけた。特に、考古学における理化学的分析の取組として、「考古科学」を意識した内容とした。また、「ホンモノ」の観察・鑑賞を促すために、敢えて各考古資料である瓦には細かな解説は付さなかった。(考古)</p> <p>(4) 共催展は本市文化財課が主体の展示ではあったが、その一角で前年度を中心に緊急的に整理・研究した当館収蔵品を展示して、細かい破片からでもわかることを紹介し、当館収蔵品の価値を普及・啓発した。なお、資料紹介パンフレットも作成した。(考古)</p> <p>(6)常設展示の一部において、最近の国指定に伴う関連展示を混ぜ込んで、話題性を意識した。(考古)</p> <p>(7)常設展示や展示の文脈に関係なく、資料紹介できるスポット展示という取り組みを始めた。(民俗学)</p>
<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<p>(3)主に城郭瓦について異例の点数を借用・展示したことにより、瓦（特に瓦当文様）の種類豊富さ・違い等を多くの来館者に知ってもらえたことがアンケート等で把握できた。今回の展示の工夫の一つとして「ホンモノ」としての瓦に対しては細かい解説を加えなかったことで、多くの来館者が「モノ」そのものに向き合った結果と理解している。一方で、展示内容が記録として残る図録については、もう少し解説を加えてもよかったように考えている。(考古)</p> <p>(4)当館展示部分について、資料紹介パンフレットを初めて作成したが、今後はPDFによるweb公開の準備をする。(考古)</p> <p>(5)保存に関する大まかなテーマで展示を実施したため、細かな方法や関連資料を展示・紹介ができなかった。今後は多分野と保存で連携し、深掘りしたものを市民に周知していく。</p> <p>(6)常設展示コンセプトが固定されているため、最新的话题を取り込むことにより常設展の変化（進化）を創り出すことができたと思われるが、常設展そのものの全体的なリニューアルも考える必要がある。(考古)</p> <p>(7)スポット展示は、ものによっては来館者が関心を見てみるものもあったが、展示点数が少ないので、単体の魅力に劣った。黒電話のハンズオン展示は触っている親子なども散見されたが、切手や大工道具などはひきつけるようなものがなかったように思う。(民俗学)</p>

<p>課題に対する 今後の対応</p>	<p>(3)展示と図録のそれぞれの内容に（詳細版・簡易版等で）少し違いが出せるようにする。（考古）</p> <p>(4)展示期間中の「お土産」効果を狙った印刷製本によるパンフレットの作成、展示会終了後の当館収蔵資料を広く普及・啓発することを狙ったweb上での公開に分けて、印刷製本の部数（予算化）やweb公開の時期を見定める必要がある。（考古）</p> <p>(6)常設展の全体的なリニューアル案の作成。（考古）</p> <p>(7)寄贈者向けという意味ではスポット展示に意味はあったと思うが、全体で見るときには労力的に疑問がある。特別に設置することなく、見てもらうような仕組み、設置するならばもうひと工夫して通常の来館者に楽しんでももらう工夫が必要と考える。その点考えていきたい。（民俗）</p>
-------------------------	---

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(2)	展示活動
②	プラネタリウムの管理・運営

館報P19～

1 事業の目的・実績

目的	県内最大のプラネタリウム施設を活用し、学習投映、一般投映等を通して、天文学についての情報発信と理解促進に努める。また、管理にあたっては解説技術の向上、内容の充実を図る。
実績	<p>(1)一般投映及び幼児向けファミリーアワー投映と星空解説</p> <p>【一般投映】</p> <p>「470億光年の、その先へー宇宙のはてを探す旅ー」 令和5年3月8日（水）～ 「水の惑星 -星の旅シリーズ-」 7月15日（土）～ 「虹の天象儀 SKYFUL OF RAINBOW」 10月11日（水）～ 「Goodnight Goldilocks 太陽系外惑星の世界」 12月5日（火）～ 「イナズマデリバリー バイザウェイの宇宙旅行?!」 令和6年3月12日（火）～</p> <p>【幼児・家族向けファミリーアワー】</p> <p>「テンテンのさがしもの」 令和5年3月10日（金）～ 「ほしのくにでみつけたたからもの」 令和6年3月15日（金）～ 7月7日（日）</p> <p>(2)幼稚園・保育園・小中学校向け学習投映・解説（小中学校：37回）</p> <p>(3)字幕付きプラネタリウム 聴覚に障がいのある人も一緒にプラネタリウムを楽しむことができるよう、字幕付きプラネタリウムを実施した。 全6回 参加者 297人</p> <p>(4)特別投映</p> <p>「こどもまんなかプラネタリウム～はじめまして大歓迎☆30min～」 実施日 6月8日（木）6月10日（土） 参加者 230人 「熟睡プラ寝たリウム」 実施日 11月23日（木・祝） 参加者 121人 「クリスマス特別投映」 実施日 12月23日（土） 参加者 32人 「アーティストウィーク熊本2024 プラネタリウム音楽祭」 実施日 令和6年2月4日（日） 参加者 152人（満席） その他</p> <p>(5)天文講演会 「金星大気～長期変動に挑み続ける探査機『あかつき』」 実施日 11月4日（土） 参加者 31人</p>

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・各種投映については、熊本市教育委員会指導課主催の「校長・園長会」や宿泊教室説明会等の機会を捉えて説明を行い、協力依頼・活用促進を図った。・広報活動も各種媒体（SNS等）を通じて積極的に行った。
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none">・天文分野に関する様々な情報を、幅広い世代の観覧者に対して継続的に提供していく必要がある。・天文担当学芸員不在のため、投映スタッフ・自然系学芸員・研究員、総務企画班職員による役割分担・協力が不可欠（それぞれの業務があるため対応は不十分）。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none">・各種投映だけでなく、天文講演会や特別投映の実施など幅広い世代の観覧者に対して天文分野に関する様々な情報提供を行う。・新たな発見が相次ぐ天文学に関する知見を多くの人々に伝える魅力的な番組の導入や解説内容の充実を図っていく。・天文担当学芸員の新規採用と天文関連業務への早期習熟（人材確保・育成）。

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
①	教育・普及活動（館内での講座・講演会等）

館報P25～

1 事業の目的・実績

目的	各分野の調査・研究や展示活動とも連動しながら、その成果を講座・教室等で公開することにより生涯学習・学校教育・社会教育等の充実に寄与する。
実績	<p>(1)通年講座（全37回実施：詳細は、P.25） 延べ参加者総数 769人 動物学講座（6回）、植物学講座（5回）、地質学講座（5回）、考古学講座（6回）、保存科学講座（6回）、くまはくのゆるゆる美術部（3回）、民俗学講座（6回）を館内外で実施。</p> <p>(2)こども科学・ものづくり教室（全32回：1366人）前年度28回：1040人 科学実験・科学工作を中心に、他分野関連の内容も複数回実施 プログラミング教育・半導体教室を新規開催</p> <p>(3)天文講演会（1回）※再掲 「金星大気～長期変動に挑み続ける探査機『あかつき』」 実施日 11月4日（土） 参加者 31人</p> <p>(4)「くまはく誕生月間（2月）」でのイベント実施 学芸班による各種イベント・講座開催と総務企画班による広報活動</p> <p>(5)その他のイベント等 夏休みの自由研究相談会、サタデーナイトミュージアム等</p>

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・考古学講座での取り組みとして、これまで古い時代を対象とした「先史考古学」が中心であったが、新しい時代を対象とした「歴史考古学」を加えた内容とした。（考古） ・「くまはく学芸員指南！熊本城攻略法」と銘打ったイベントを複数回実施し、当館が特別史跡熊本城跡のガイダンス施設としての役割を果たす内容とした。（考古） ・年3回と回数は少ないが、最後の1回で寺院の見学会を行った。普段なかなか行く機会のない場所を訪れ、実際の文化財を見たり説明を聞くことで受講生のさらなる興味関心に繋げていけるよう試みた。（美術・工芸） ・展示会、調査・研究活動と関連させながら、新たな知見を交えて参加者満足度の高い講座・教室が提供できるよう努めた。 ・こども科学教室では、久々に自由参加型（事前応募・抽選制ではないタイプ）の教室を開催したり、定員制の受入れ枠を増やしたりして参加者総数の増加を図った。新規の教室も数回実施。 ・多種多様なイベント等を開催することで、幅広い世代・より多くの来館者のニーズに応えるようにした。
-------------	--

<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講座内容が広がったことにより、常連受講生ではなく新たな受講生も加わった。今後は、受講生のさらなる新規開拓を考える必要がある。(考古) ・熊本城が天守閣を中心とした有料エリアのみではないことを広く周知できたが、今後複数の解説コースの開発が必要となってくる。(考古) ・民俗学講座は博物館活動の補助をしてくれる人を養成する講座としたいという目標があったが、受講者の求めるものと講座内容との乖離が著しく大幅な修正の必要があった。実際にボランティア育成を行う形式としては不適と思ったので、講座そのものについて考え直したい。(民俗) ・普段訪れていない寺社は敷居が高いという意識があるが、ご住職からの説明を直に聞くことで受講者たちは他の寺社にも興味を抱くきっかけになったようである。今後もこうした見学会を継続したい。(美術・工芸) ・リニューアルして5年が経過し、各種展示会・講座・イベントを通して、博物館の認知度も徐々に回復してきた感がある。 ・専用駐車場を有しないためか、近隣施設で催しが行われる際は当館のイベント開催への影響(参加者減・キャンセル等)が小さくない。
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「考古学講座」とは異なる考古学に対する理解や実践・楽しさを広く知ってもらう通年ものを検討する(考古) ・特別史跡熊本城跡の無料エリアに特化した解説コースの調査・研究を実施(考古) ・現在も行っているが、周辺施設のイベント等、情報把握に努める。 ・年間行事の開催時期や内容等について(人的状況も含め)、持続可能な博物館活動が展開できるよう見直しをすすめる。

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
②	学校教育支援事業（博学連携事業）

館報P36～

1 事業の目的・実績

目的	教材・学習材として価値のある資料及び学芸員・研究員の専門性（知識・技能等）を活用し、学校教育支援・館内外における学習活動支援に資する（主に社会科・理科・総合的な学習の時間等）。
実績	<p>(1)ゲストティーチャー派遣授業【お出かけ事業】（20校：29単位時間） 派遣授業プログラム集をもとに、学校の要請に応じて学芸班職員を派遣し、学習・指導支援を行った。Zoomを活用した遠隔授業・遠隔解説にも試行的に取り組んだ。（前年度実績 19校：22単位時間）</p> <p>(2)館内学習支援活動【お迎え事業】（59校：69プログラム） 館内学習プログラム集をもとに、要請に応じて館内学習の支援を行った（前年度実績度 40校：66プログラム）。</p> <p>(3)スクールシャトルバス事業（全13校：818人） 対象校を市内全域に広げ、応募校の中から抽選で13校を当館や塚原歴史民俗資料館に招待。新たな学びへの興味・関心を高める目的で実施。 （前年度実績 12校：658人）</p> <p>(4)KEW（熊本エデュケーションウィーク）への参画 当館の学校教育支援事業のPRを兼ねて、子どもや親子を対象とした各種イベントの紹介を中心に20程度の動画にまとめ、YouTubeにて配信した（視聴回数：約110回）。</p> <p>※ 以下(5)～(7)の詳細は、「その他の教育普及活動」を参照のこと</p> <p>(5)教職員向け研修講座「館内学習プログラム解説」（延べ17人）</p> <p>(6)博物館実習（8月23日～28日） 受入総数 11人</p> <p>(7)その他（教職員初任者研修、社会教育実習、職場体験学習、大学生の講義・館内見学受入れ等）</p>

2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育支援事業に関する事業体系一覧表を更新し、事業の両輪である「お出かけ事業」「お迎え事業」を中心とした各種事業内容の周知を図るため、校長・園長会等の機会を捉えて情報発信を行った。 ・学校教育経験者でもある教育普及支援員（2名）が中心となり、団体利用のオリエンテーションやショート解説等を務め、学校団体等への手厚い対応を行った。
<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育支援事業を初めて活用する学校も少しずつ増え（学校行事に位置付けているところもある）、当該プログラムの活用数は（「お出かけ・お迎え事業」ともに）前年度よりも増加した（Zoomによる遠隔解説も継続中）。 ・アンケート集計結果によると、館内学習の満足度は体験した教師・児童ともに高評価であった。 ・プログラム利用校の増加に伴い、実施日時・場所等の調整が必要。
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数の多い学校団体においてはZoom等のICTを活用した学校での事前学習、展示室で少人数グループ毎の辻立ち解説等、可能な限り臨機応変に対応する。 ・各種事業の実施相談を受けたら、日程表や実験・工作室等資料予定表、博学連携年間カレンダー等を確認し、スケジュール調整（既に予約が入っている場合などは）代替案の紹介を行う。 ・学校団体のニーズや児童生徒の興味・関心を捉え、両プログラム集の定期改訂（採択教科書の改訂周期に準じて4年ごと）や実践を通じた内容更新を行い、さらなる利活用と満足度アップを目指す。

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
③	生涯学習事業（博社連携事業を含む）

館報P45

1 事業の目的・実績

目的	他の社会教育施設とも連携を図りながら、多様な学芸活動の成果を幅広い世代に還元し、生涯学習への興味・関心と参加意欲の向上に資する。
実績	<p>(1)公民館の講座支援 飽田公民館や東部公民館等で動物学に関する講座、地域楽学習、科学工作や実験ショー等の講師を務めた。</p> <p>(2)自然観察会の実施 森林学習館、公民館所管の家庭教育学級、水前寺江津湖公園、子育てネットワークセンター等の各種団体からの依頼を受け、小萩山や八景水谷公園・江津湖周辺の生きもの観察会の講師を務めた。</p> <p>(3)文化財研究・資料保全関連分野の講師派遣 博物館関連団体、九州文化財保存学研究会、熊本城調査研究センター等からの依頼を受け、城郭研究・石垣研究の最前線に関する講演や当館IPMの取組について事例紹介等を行った。</p> <p>(4)その他 参加者総数 913人（前年度 775人）</p>

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の5類移行もあり、講師派遣依頼数は前年度から微増し（17件→19件）、トータルでの参加者もだいぶ増えてきた。依頼を受けた講座等は、それぞれ専門的な知識や技能が生かせる場であり、館内業務を調整しつつ可能な限り協力するようになった。 ・幅広い年齢層、多様な職種・立場の参加者（のなるべく全員）が興味・関心を抱き、楽しく理解できるよう内容を工夫した。
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ・以前から連携していた社会教育施設だけでなく、分野によっては新たな団体との関係・連携が図れるようになった。 ・講師派遣依頼数の増加が今後も見込まれる中、館内業務との兼ね合いでどの程度の連携事業が（内容的・回数的に）可能なのか、各分野・担当者ごとに見通しをもって持続可能な取組にしていく必要がある。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・館内における業務の充実を図る上で、職員が出向いて行う事業の拡充には限度がある。今後も引き続き、適切な業務量を見極め、ICTの活用等を含めた効率的な連携の仕組みを検討・構築していく必要がある。

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
④	館外での学習、教育普及（HP等での情報提供）

館報P47.P57~

1 事業の目的・実績

目的	熊本博物館所蔵資料に関するデータを広く公開し、情報公開に努める。また、ホームページコンテンツの充実を図り、各種専門情報の伝達を行う。熊本博物館のイベント・諸活動について周知し、広報に努める。
実績	<p>(1)収蔵品データベースの情報更新・ホームページ公開 地質、動物、植物、理工、考古、歴史、民俗：約15万点（登録分） （天文、美術工芸も含む）</p> <p>(2)ホームページコンテンツの運用・更新 新型コロナウイルス感染症の拡大防止（流行抑制）対策の一環として公開を始めたページ：「博物館流 自然観察・科学工作のススメ」を再構成し、新規コンテンツを加えて「くまはくオススメ！資料・実験工作・観察法・エトセトラ 紹介・解説コーナー」として令和5年10月6日（金）より公開し、順次更新中。</p> <p>(3)刊行物の作成・公開 館報（調査・研究記事含む）、熊本博物館ニュース（月刊）、くまはくニュースレター（前期・後期：年2回）等の電子公開</p> <p>(4)展示会発行物の制作 企画展「清正から受け継いだ名城 加藤忠広と熊本城」展示図録 企画展「清正から受け継いだ名城 加藤忠広と熊本城」成果報告集 企画展「資料保存の世界」関連刊行物『文化財大好き昆虫（文化財害虫）図鑑』</p> <p>(5)報告書・目録等 「資料整理目録（歴史）5「山崎アルバム」」 「令和5年度 熊本博物館 考古資料 蔵出しパンフレット 樺番城窯跡出土品－中世須恵器の窯資料－」 「資料整理目録（美術工芸）2「絵画目録（1）」</p>

2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・刊行物、展示会関連発行物、資料整理報告書・目録等の作成し、総合博物館の多彩な活動について情報発信できるよう努めた。 ・以前のホームページコンテンツは自然系を中心とした情報発信の場となっていたが、リメイク後は全分野を網羅するページに改善し、各分野に対する興味・関心が高まるよう工夫した。 ・今回は、秋季企画展において成果報告集を刊行し、その準備・借用に伴う調査・研究成果をなるべく公開するように努めた。（考古） ・資料整理目録等を作成し、整理・調査・研究に基づいて収蔵品の周知に努めた。（美術・工芸）
<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・刊行物（館報、熊本博物館ニュース、くまはくNEWS LETTER）等については、今後も継続的に発行し、紙面とHPで公開していく。 ・HPコンテンツをリメイクしたことで、総合博物館としての多彩な魅力を伝える場（発信ツール）が一つ増えた。当館諸活動に対する閲覧者の興味関心と理解が深まるよう、発信内容の充実が求められる。 ・博物館活動の大きな柱である「調査研究」、「展示」の成果をまとめた展示図録については、今後も更なる内容の充実化を努力していくが、そのための十分な時間が必要である。 ・収蔵品目録は今後も冊子の刊行を継続するとともに、HPでのデジタル公開も進める。定期的に資料整理に従事できる時間の確保が課題である。
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・HPコンテンツを追加・更新した際に、その旨を周知していく。 ・刊行物等の製作・発行に関しては、博物館活動の記録物（記憶）として位置付けられるほか、総合博物館の多種多様な活動について広く周知する側面もあるため、内容の更なる充実を図る。 ・収蔵品の整理と情報公開は博物館の重要な役割の一つであり、今後も継続的な事業として認知・定着させていく必要がある。

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
⑤	その他の教育・普及活動

館報P46~

1 事業の目的・実績

目的	当館の施設機能や学芸員等の専門性を活かし、博物館実習生の受け入れをはじめ教職員を対象とした研修会の実施、その他、職場体験学習の場として中高生等の受け入れにも応じ、求められる資質・能力の育成・向上に寄与する。
実績	<p>(1)博物館実習生受入れ HPにて「2023年度：博物館実習生の受け入れ」を周知し、可能な限りの感染症対策を講じたうえで学芸員資格の取得を目指す県内外の大学生等11人を受け入れた（前年度は19人）。 実習期間：令和5年（2023年）8月23日（水）～8月28日（月）：6日間</p> <p>(2)高校生対象「インターンシップ（企業実習）」 実習期間：7月4日（火）～7月6日（木）：3日間 各種の学芸業務体験、博物館での接遇等について学ぶ機会を設けた。 （湧心館高校 4人）</p> <p>(3)中学生対象「ナイス・トライ（職場体験）」 実習期間：9月5日（火）～9月7日（木） （京陵中学校 3名：2日間、西山中学校 4名：3日間）</p> <p>(4)教職員向け研修講座「館内学習プログラム解説」 実施日：8月21日（月）午前：自然系講座 午後：人文系講座 （教職員 延べ17人）</p>

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 各分野の資料を実際に用いながら、分野ごとの実践的な内容を体験してもらえるよう、各担当学芸班職員がそれぞれ工夫して実施した。 （博物館実習のほか、教職員研修講座等の受入れ業務は同様）
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> 博物館実習の内容については、各分野とも実際の業務を部分的に体験する場を設け、満足度を高めた。 ナイス・トライ、インターンシップ等では、職業観や勤労観の醸成につながるよう体験活動以外の言葉かけ等にも気を配った。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 博物館実習や教職員研修講座については、早期に実施要項を示し（定員・実習の評価項目を厳選するなど、評価方法の工夫・改善を図る。 館内業務の繁忙期とナイス・トライやインターンシップの希望日が重なることがある。スケジュール管理を行い、担当者を中心に準備体制を整えておくとともに、学校側にも年度内のできるだけ早い時期に相談をするよう引き続き働きかけていく。

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(4)	収集・保存活動
①	収集・保存

館報P60～

1 事業の目的・実績

目的	当館の事業展開に必要な不可欠な資料等の収集を行うとともに、収集・保存・管理、収集品の補修等を実施し、博物館活動の充実と収集品の保存管理に努める。また、収集品のデータベース化を進め、一般公開も含め、広く収集資料の活用を図る。
実績	<p>(1)資料の収集・保存</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収集実績、利用状況等（館報2023年度報告、P.60～64に記載） <p>(2)収集品の収集管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示室、収蔵庫等における環境管理 ・ 総合的有害生物管理（IPM）の実施 <p>(3)資料修復関係（同報告、P.64に記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史・美術工芸分野 収蔵刀剣類の手入れ（年4回） 刀剣類8件の写真撮影 「紅糸威二枚胴童具足」の修復 <p>(4)理工分野：蒸気機関車の維持管理（館報P64）</p> <p>大気汚染防止法の改正に伴うアスベスト調査が必要となり、屋外展示物の観覧者の安全・安心確保のため、蒸気機関車の定点部材及び周辺大気への飛散防止状況を確認（令和4年度から毎年実施）。</p>

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・資料収集については、将来的に展示可能なもの、学術的な価値の高いものを中心に収集を行った。・保存修理事業については、優先順位を決め、計画的な修復を進めている。・刀剣類の手入れは学芸員立会いのもとで状態確認を行いながら実施し、異常が認められた場合は早急に研磨師と相談・調整できるよう努めている。・年に数振ずつ刀剣類を継続して撮影し、高精細画像データを保管。他館や雑誌への画像提供やSNSでの発信などに活用。・修復が完了した甲冑は、特別収蔵庫にて保管。今後の展示活用を図る。 (歴史)・収蔵管理については、温湿度調査やトラップの害虫計測の結果から効果的な清掃などを実施し、日常的なIPMに取り組みながら各展示室、各収蔵庫の現状把握を行っている。・収蔵庫に除湿器を設置し、急激な湿度上昇を抑制、適切な環境を保っている。・特別展示室ケース内のガス濃度を測定することで、濃度推移を把握でき効率よく濃度低下を図ることができた。(保存科学)・蒸気機関車のアスベスト調査については専門的な知識と技能、測定機器と分析能力を有する業者をあたり、経年比較ができることを条件に選定した。
-------------	---

<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・限られたスペースと予算の中で、資料の収集・管理・修復等に取り組んだ。 ・年1～2点程度の修復スケジュールでは全点の修理が完了しないため、スケジュール及び修復予算も見直す必要がある。 ・歴史・美術工芸分野は特に修理にかかる費用が高額になる分野であり、館の事業として実施することへの理解が求められる。 ・既存の収蔵資料の精査・整理と並行して新規寄贈資料の整理・登録を行っており、作業時間の確保が課題。 ・アスベスト調査は毎年実施する必要があるかどうか要検討。
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の維持管理や修復に必要な予算増額を要求していく。 ・資料のデジタルアーカイブ化が求められる中、公開可能なレベルの写真データを蓄積していかなければならない。そのためにも撮影の委託や撮影機材の更新など、継続して予算要求をしていく必要がある。 ・予算の確保が厳しい中、どのように資料の拡充や保全を維持していくかが博物館運営において重要な課題である。 ・寄贈受入れ時には、寄贈者に対して資料収集・活用方針について、継続して丁寧な（念を押して）説明を行う。 ・従来の方針通り、寄贈受入れ後の資料の取り扱い等については、館の権限により適切に行う。（美術） ・年間を通して、展示室や収蔵庫の清掃など、「被害の未然防止」に向けたIPMの計画を職員に周知し実践を継続する。 ・収蔵庫における除湿器の効率的かつ継続稼働を行うために、排水システムの改善と稼働時間や運営方法について職員間で共通理解を図り、実践化する。 ・ケース開放の時期や時間を職員に周知し、継続的に行うことで濃度上昇を抑制。（保存） ・蒸気機関車の貸主と相談しながら必要な予算は確保していく。（理工）

IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(5)	情報収集・発信
①	情報収集・情報発信

館報P57

1 事業の目的・実績

目的	熊本博物館における展示資料や展示会、講座・イベント情報など、様々な媒体を活用し、広く県内外へ情報発信するとともに他館の活動に関する情報収集も行い、当館の活動に活かしていく。
実績	<p>(1) (再掲) 「熊本博物館ニュース」を毎月発行し、展示会や講座、教室などの案内情報等を小中学校や市関係施設等に配布するとともに、館内でも配布を行い、月毎の情報発信を行った。</p> <p>(2) (再掲) 「くまはくNEWS LETTER」を年2回発行。展示会・講座・イベント等の開催報告や収蔵資料などの紹介を通して、博物館の多面的な魅力を発信している。</p> <p>(3) 当館ホームページ、市ホームページ、市政だよりをはじめ、各種のSNS (Facebook、X (旧Twitter)、YouTube) 等を活用し、情報発信に努めた。</p>

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント情報の提供が中心となる月刊の「博物館ニュース」に加え、年2回発行の「くまはくNEWS LETTER」でイベントの実施報告や博物館活動の紹介、資料紹介・解説などを行い、魅力ある情報の発信に努めた。 ・ 館公式のSNSサイトを運用し、イベント告知だけでなく展示替えや来館者の目に触れにくい学芸員の仕事についても情報発信を行った。
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館での展示会・教室・講演会などの催しやイベントなどについて、あらゆる媒体を活用しながら県内外への周知を図っていく必要がある。 ・ SNSの活用では、それぞれの利点を活かし、幅広い世代に向けた情報発信に努める。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当館独自の広報活動や市政だよりによる周知のほか、報道機関等や生活情報誌への情報提供を行うなど、さらに積極的な広報に努める。 ・ 熊本城周辺施設との連携や熊本国際コンベンション協会等との共同イベントの開催、博物館単体ではなく共同での催しも工夫して企画するなど、様々な方法で博物館の魅力を県内外に発信できるようにする。 ・ SNSについては、Youtube、X (旧Twitter)、Facebook、Instagramなどの特性を考慮し、内容も工夫しながら広報活動を展開していく。

IV. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(1)	施設利用

1 事業の目的・実績

館報 無

目的	来館者の安全確保に努め、誰もが安心して気軽に博物館を訪れたり、活用したりすることができるようにするとともに、公開承認施設を目指し、博物館施設管理の徹底を図る。
実績	<p>(1)特別展示室の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公開承認施設」を目指し、当館管理のもとで特別展示室1・2・3、常設展示室、収蔵庫等の環境調査等を行い、展示環境の整備を実施。 ・保存科学担当の学芸員を中心に、年間を通したモニタリングにより展示環境の変化に留意し、環境保全及び改善に努めている。 <p>(2)展示室、講堂、実験・工作室の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を講じながら、特別展、企画展及び講演会・講座・研修会等で活用。また、小中学生を対象とした館内学習プログラムをはじめ、教職員を対象とした研究会・研修講座等でも活用している。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示室や特別展示室での来館者の動線や展示環境の変化に注意を払い、適切な環境整備に取り組んだ。 ・展示する資料を保管する場所、作業動線、展示室、ケース内部の環境をなるべく同じにし、資料にストレスをかけないような対策を実施。 ・定期的にケース内のガス濃度を測定し、濃度が基準値を超過しないように留意。また、休館日等にはケース開放を実施し、資料の状況と温湿度の変動を見ながら、ガス濃度を低下させた。 ・講堂及び実験・工作室の使用に際しては、（感染症対策の一環として）講演会やイベント、講座ごとに適切な収容定員を設け、座席の配置や一方通行化など、安全な動線づくりなどにも努めた。
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ・館内展示環境の変動状況など年間通したモニタリングを実施し、館運営の基礎情報とした（定期的に館内会議で報告し共通理解を図った）。 ・ケース内のガス濃度を低下させるため、ケース開放を職員に周知し、効率的かつ継続的な環境整備に努める必要がある。 ・今後も十分な感染症対策を講じて来館者の安全・安心を確保する。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・過年度：数年間分の展示期間における環境データから、温度・湿度・ガス濃度の時期的な変化を把握できている。それらを参考にしながら、突発的な変動にも対応できるよう運用していく。 ・今後も適切な感染症対策を講じたうえで、各展示室等の適切な環境整備や管理、施設の安全かつ適切な運用を図っていく。

IV. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(2)	来館者へのサービス、安全管理

館報 無

1 事業の目的・実績

目的	安全で誰もが安心して気持ち良く訪れることができる博物館づくりに取り組む。
実績	<p>(1) エントランスの活用 エントランスには休憩用ソファやイスを配置するとともにミュージアムショップを設置し、来館者のサービス向上に努めた。また、来館者が飲料補給できるようにエントランス区域のみ飲料可として（館内は原則的に飲食不可）、ミュージアムショップと協力しながら飲料水の提供やエリアの周知徹底を図った。</p> <p>(2) 入場券販売方法、個人での来館、団体での来館への対応 受付窓口では、入場券販売機の案内及び減免対象者の案内等、館内へのスムーズな誘導を行うとともに、開催中の展示会や催しなどの案内、団体受付も行き、来館者へのサービス向上に努めた。また、三の丸地区の中核拠点として、熊本城・熊本城ミュージアムわくわく座・博物館の3館共通券の販売や施設案内等を行い、観光案内機能を拡充した。</p> <p>(3) 身体障がい者、高齢者の方等への対応 南側玄関は団体客入場口として運用するとともに、身体障がい者用駐車場も設置し、入場時の利便性を確保している。障がいを持つ方や高齢者等が、いつでも利用できるよう車いす（3台）を配備している。また、ベビーカー（5台）も配備し、来館者サービスの向上を図った。</p> <p>(4) 来館者の誘導、安全管理 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、館内運用マニュアルの見直しを行い、マスク着用の推奨や手指消毒液の引き続きの設置などの感染症対策を実施し、来館者が安心して観覧できる環境整備を行った。また、警備員1名を常駐させ、来館者の安全管理・安全確保に努めるとともに、不審者の侵入監視、閉館後の施錠確認等の徹底を図った。</p>

2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口対応や館内案内についてはアウトソーシングにより専門的ノウハウの活用を行い、来館者サービスの向上と効率性の高い対応を図り、キャッシュレス決済の導入等により、来館者への利便性の向上も図っている。 ・総合受付として、一般来館者の受付だけでなく、団体予約の受付も一元化することで一括管理が可能となっている ・ミュージアムショップを設置することで、エントランスの賑わいや博物館の魅力向上を図っている。 ・感染防止対策として、文化庁の補助事業を活用して導入した自動検温サーモカメラや館内の空気環境を浄化する空気清浄機の設置は継続中。 ・来館者の動線を誘導するサイン等の設置により、人の滞留を抑制する措置も引き続き行っている（ソーシャルディスタンスの確保）。
<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口案内業務をアウトソーシングすることで、旅行者等の多様なニーズにも柔軟に対応することができた。 ・ミュージアムショップ設置は博物館の魅力を向上させる効果があり、今後も魅力ある博物館らしい品揃えを行う。
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者案内や入場券の販売対応等に際しては、窓口以外の職員も含め、館全体としてさらに親切で丁寧な対応に努めていく必要がある。 ・ミュージアムショップの商品については、業者と当館職員でアイデアを出し合い、来館者の関心と購買意欲を高める魅力ある品揃えを行っていく必要がある。

IV. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(3)	火災、地震等の自然災害対策

館報 無

1 事業の目的・実績

目的	万が一の火災や地震等の自然災害から来館者の安全を確保するとともに、展示資料及び収蔵資料の保護・保全を行う。
実績	<p>消防計画に沿った安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防計画に沿った安全管理を実施。火災だけでなく地震対策についても記載している。また、当該計画では自衛消防隊を設置し、隊員それぞれが任務を分担し、緊急時には迅速な対応ができる体制づくりを行っている。 ・消防避難訓練を実施。初動対応マニュアル及び施設配置図を視認しやすい場所に設置している。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画においては火災だけでなく地震災害への対応も記載している。また、塚原歴史民俗資料館の消防計画においても同様の対応を行った。 ・職員全員で避難訓練を行い、来館者の安全確保や有事の際の対処の仕方について理解を深めた。
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画に基づいた定期的な避難訓練を継続して実施し、有事の際はもとより常日頃から来館者の安全確保に万全を期すよう備えていく必要がある。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の安全確保や収蔵品保全のため、消防署等の助言を受けながら様々なパターンの避難訓練等を定期的実施していく。

IV. 施策についての点検報告

3	市民参画・協働と他の博物館等との連携強化
(1)	博物館活動への市民参画・協働

館報 無

1 事業の目的・実績

目的	博物館活動において市民参画・協働による活動を展開し、市民に親しまれる博物館活動を行い、市民と共に発展しくことを目指す。
実績	「くまはくボランティア」の規約に基づき、各学芸員の要請に応じた資料整理等のボランティア活動を行っていただいている。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸班職員が、分野ごとに参加者の興味・関心を高めるようなテーマを設定し、内容も工夫して魅力ある各種講座及び教室等を実施している。 ・通年講座等において、受講生とのつながりを深め、今後、博物館運営の参画・協働パートナーとなり得る人材の養成に努めている。
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野で一定の専門性を持ち、継続して活躍いただけるよう、博物館としても人材育成やグループの活動支援に努めていく必要がある。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も魅力的な講座や教室等を開催し、市民とのつながりを一層深めるとともに、参加者の専門的な知識や技能の向上を図る。 ・市民参画・協働の姿を具現化できる体制整備のため、活動の種類や内容などを検討していく。

IV. 施策についての点検報告

3	市民参画・協働と他の博物館等との連携強化
(2)	熊本城とその周辺関連施設との連携、他の博物館との連携

館報 無

1 事業の目的・実績

目的	熊本城周辺の文化施設及び観光部署が連携し、熊本城をはじめとした上質で伝統ある「熊本の歴史・文化の魅力や価値」を積極的に発信し、国内外の観光客や教育旅行の誘致・拡大につなげる。また、県内外の博物館との連携やネットワークの構築を図り、質の高い博物館活動の実現を目指す。
実績	<p>(1) 熊本城域活性化協議会 熊本城を中心に、観光を軸とした活性化協議会に令和3年度から本格的に参画。観光施設としての視点で、熊本城域の回遊性を高め来館者の誘客につなげることや、観光イベントに合わせた博物館の展示やイベント開催など他部門との連携に取り組んだ。</p> <p>(2) 熊本県内博物館、美術館、記念館等との連携 熊本県博物館連絡協議会に加盟する各施設の新型コロナウイルス感染症への対応事例や様々な取組について、協議会事務局（熊本県博物館ネットワークセンター）を中心に検討及び情報の共有を行った。</p>

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本城周辺の関連施設や行政の観光部署等と展覧会・催事等の情報共有を行い、連携した催事や広報を行うことによる相乗効果を狙った。 ・それぞれの事業が一過性のものにならず、継続した事業として定着・発展するよう、定期的に情報の共有を行っている。
-------------	--

<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本城及びその周辺関連施設において感染症対策等に関する情報共有を図り、施設毎の環境の違いなどで各々の対応となる中、日々変化する状況への対応への参考とすることができた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響からの回復の中で、今後も継続して相互に連携を図り、協働による取組を強化し、各施設が相乗効果を得るためには、連携会議等の新しい活動の形を検討する必要がある。
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用した遠隔会議や、メール等による情報交換など、新しい生活様式に則した会議や情報交換を引き続き実施する。 ・各施設や観光振興部署等との定期的な情報の共有を図り、より効果的な広報やイベント等を計画的に実施していく